平成２９年度

事　業　報　告　書

◆◇　目　次　◇◆

社会福祉法人　中山梅寿会 1
指定介護老人福祉施設　なかやま幸梅園..... 8
指定短期入所生活介護事業所　なかやま幸梅園..... 19
指定短期入所生活介護（介護予防）事業所　なかやま幸梅園..... 23
総合福祉施設　なかやま幸梅園　厨房..... 29
ケアハウス　なかやま幸梅園 32
指定通所介護事業所　なかやま幸梅園..... 42
指定通所介護（介護予防）事業所　なかやま幸梅園..... 47
指定居宅介護支援事業所　なかやま幸梅園..... 55
在宅介護支援センター　なかやま幸梅園..... 61
指定通所介護事業所　佐礼谷 71
指定通所介護（介護予防）事業所　佐礼谷..... 76
短期入所生活介護事業所　佐礼谷 84
指定通所介護事業所　野中 91
指定通所介護（介護予防）事業所　野中..... 96
短期入所生活介護事業所　野中 102
短期入所生活介護（介護予防）事業所　野中..... 107
地域活動支援センター　くりのみ 114
指定相談支援事業所　　くりのみ 120

社会福祉法人　中山梅寿会

社会福祉法人　中山梅寿会

【基本方針】

利用者本位の安心・安全を常に心掛け、満足度の高いサービスを提供する。
笑顔のあふれた現場で、互いが協調し、地域に信頼される開かれた施設を目指す。

【具体的取り組み】

（１） 地域社会から「何を必要」とされているのか情報収集を行い、行政との連携を図りながら地域福祉の推進及び公益的取り組みを行う。

（２） 利用者に対して、人権を尊重したうえで、サービスの質の向上を図り、地域との良好な関係性を継続する。また生活・ケアの環境面でも向上を図る。

（３） 人材育成プログラムの内容検討と教育システムの向上、働き甲斐のある職場作りの取り組みにより、職員の処遇向上を行う。また人材確保に向け積極的に諸団体と連携を行う。

（４） コンプライアンスの徹底を経営者、管理者を含む法人全体の基本姿勢として取り組みを行う。

（５） マネジメントにより様々な資源や資産・リスクなどを管理し、経営上の効果の安定化を図る。

（６） 平成 30 年からの制度改革を視野に入れた情報収集を行い、その対応・対策を検討し安定した経営に繋げる。

（７） 施設創立 20 周年を祝い、20 年の歴史を振り返ると共にその歴史を共有することで今後の対策、対応に繋げる。

＜評価＞

☑ 家族、利用者及び住民を対象にアンケートを実施し意見集約を行うと共に検討後実施対応していくことができた。

☑ 人権尊重を常に念頭に置き、サービス提供を行った。ケアの質向上に取り組んだものの接遇面では更に改善の必要がある。

☑ 人材育成プログラムは、今後も内容を検討しながら働きやすい職場づくりに向けた取組を継続していく。

☑ コンプライアンス研修を実施し周知に努めることができた。今後もパート職を含む全職員に周知できるように努める必要がある

☑ 資産・リスク等の管理を行うことで、経営安定に努めた。

☑ 介護保険改正について情報収集し対策を検討することができた。

☑ 創立 20 周年の記念誌を作成し、利用者と一緒にお祝い行事を実施した。

1. 各委員会活動

平成29年度

委員会名	主 な 活 動 内 容	年回数
【 ナ ー ス 会 】 ・感染症・褥瘡対策	■感染症の予防と発生時の対応に関する取り組み ■褥瘡の予防と発生時の対応に関する取り組み	12
【 相 談 員 会 】 ・事故防止・身体拘束 ・車両委員 ・相談員	■身体拘束廃止に関する取り組み ■事故の予防と発生時の対応に関する取り組み ■車両の安全運行及び車両管理 ■行事計画・リスク管理・各事業所との連携	12
【 生 活 支 援 委 員 会 】 ・ターミナル委員・入浴委員 ・ケアプラン委員	■特養入居者のケアプラン業務運営 ■特養入居者の看取りに関する取り組み等 ■入浴環境の改善・入浴用品の見直し	12
【 リ ハ ビ リ 委 員 会 】	■生活援助に向けた環境整備とリハビリ	4
【 排 泄 委 員 会 】	■特養入居者の排泄の見直し・排泄用品の見直し	1
【 食 事 委 員 会 】	■入居・利用者の食事形態の見直し及び環境整備	6
【 広 報 委 員 会 】	■年4回の広報誌の作成運営	5
【 研 修 委 員 会 】	■特養における施設内外の研修の立案・実施	4
【 接 遇 委 員 会 】	■職員の質の向上に向けた取り組み	6
【 実 習 担 当 委 員 会 】	■施設内での実習受け入れに関する準備、調整等	1

【 職 員 会 】	法人・施設方針の確認、研修や各委員会報告等	12
【 運 営 会 議 】	施設運営に関する問題解決の取り組み	20
【 安 全 衛 生 委 員 会 】	安全衛生に関わる内容	12
【 防 災 委 員 会 】	防災対策等に関わる内容	12
【 特 養 会 】	特養における諸問題の解決に向けた取り組み	12
【 パ ー ト 会 】	職員間の連携と調整	1
【 医 療 安 全 】	各事業所の連携・勉強会の立案実施及び医療安全	12
【 厨 房 部 会 】	調理における諸問題の改善に向けた取り組み	4

2. ボランティア状況（定期）

平成29年度

	クラブ等名	ボランティア	年間回数
月/1回	フラワーアレンジメント	中塚道子	12回
月/3回	音 楽 ク ラ ブ	一色康子	36回
月/2回	書 道 ク ラ ブ	西山一幸・西山和子	24回
月/3回	シーツ交換ボランティア	町内協力者 43名	46回
月/1回	美 容 ボ ラ ン テ ィ ア	中山町内理容・美容店 7店舗	12回

3. ボランティア状況（不定期）

平成29年度

日	ボランティアグループ名	内　　容
5/13	伊予銀行コーラス部	母の日会(20周年記念行事)
5/29	金山ミスエ	柏餅つくり
6/18	大洲市 竹内氏	父の日会演芸園内清掃
7/29	特養家族会	施設清掃、草刈他
8/3	中山中学校	盆踊り(踊り練習・看板づくり)
8/4	中山中学校	盆踊り(踊り練習・看板づくり)
8/5	中山中学校	盆踊り(会場準備)
8/6	中山中学校(生徒会)	盆踊り(準備・運営協力)
	SVC	盆踊り(演芸披露)
	峠のOBAJIN太鼓	盆踊り(太鼓演奏)
	定期ボランティア多数	盆踊り(着付け・化粧・利用者付き添い)
	交通安全協会中山支部	盆踊り(交通整理)
	民生児童委員	盆踊り(準備・運営)
	玉井酒店	盆踊り(運営)
	中山婦人会	盆踊り(踊り)
	中山町商工会女性部	盆踊り(踊り)
	東町振興会	盆踊り(運営)
	ポケット	盆踊り(運営)
	中山保育園	盆踊り(運営)
	くりのみ保護者会	盆踊り(運営)
	特養家族会	盆踊り(運営)
	レインボー	盆踊り(運営)
	平磯自動車	盆踊り(資材・運搬)
	中山中学校	盆踊り(運営・吹奏楽出演)
8/7	中山中学校	盆踊り(片付け)
8/16	中山仏教会	合同慰霊祭
	JAえひめ中央葬祭センター	合同慰霊祭
8/30	中山地区老人クラブ会員20名	中山地区老人クラブ会員による演芸他交流会
9/9	中山地区建築組合	竹伐採、樋掃除他
9/17	梅青団	演劇
	中山カラオケ「縁歌塾」	敬老会演芸「カラオケ」出演
10/22	泉町	利用者との交流(神輿)
11/3	高本博美 ・一色康子他	文化祭 (野点・ふれあい広場)
11/4	井川一郎・西村道子・中塚道子	文化祭(フリーマーケット・フラワーアレンジメント)
12/12	中山地区民生児童委員及び、OB	施設清掃ボランティア
12/24	特養:家族会有志	施設内清掃活動
1/2	藤縄　三島神社	歳旦祭
3/15	金山ミスエ	豆入り作り

4. 園内研修

平成29年度

月日	研修内容	講師名
5/25	プライバシー・倫理・法令順守に関する勉強会	窪田施設長
6/21	感染症(食中毒予防他)勉強会	中村管理栄養士
7/26	福祉車輌安全運行・事故防止勉強会	事故防止委員会
10/20	救急救命講習会(第1回)	消防署・救命士
10/31	救急救命講習会(第2回)	消防署・救命士
9月中	感染症(インフルエンザ・汚染物処理等)勉強会 ※各部署	感染症対策委員会
11/25	認知症勉強会	愛大精神科Dr.
12/13	事故防止勉強会	事故防止委員会
1/31	身体拘束・高齢者虐待防止勉強会	窪田施設長
2/21	褥瘡予防勉強会	株式会社タイカ

5. 園外研修　　別紙１

6. 施設見学

平成29年度

月日	団体名	人数
4/22	生と死を見つめる会	10
6/14	うちこ園	5
7/19	寿山苑	8
2/27	五条の里(名古屋)	3

7. 施設実習

平成29年度

月日	団体名	人数
5/16～6/23	四国中央福祉学院(社会福祉士)	1
10月～11月	河原学園(歯科衛生士)	30
10/3～10/5	愛大看護学科施設実習	6
10/31～11/2	愛大看護学科施設実習	5
11/28～11/30	愛大看護学科施設実習	5
3/1	中山小学校(4年生)交流会	12
1/28・1/29・2/7	介護支援専門員実習	2
2/5～3/8	松山大学(社会福祉士)	1

8. 行事

平成29年度

	行事
4月	花見
5月	運動会　母の日会　フレンドリー祭り　演芸会
6月	お神楽　ホタルまつり　父の日会　焼肉パーティ
7月	風船バレーボール大会　わくわくバイキング
8月	盆踊り大会 合同慰霊祭 そうめん流し 幸せの集い　老人クラブ交流会
9月	ぶどう狩り　敬老会
10月	居酒屋「観月祭」地方祭　わくわくバイキング
11月	文化祭(野点・演芸会・バザー)
12月	クリスマス会　しめ縄作り　餅つき　忘年会
1月	歳旦祭　初詣　新年会　餅つき
2月	節分「豆まき」　わくわくバイキング
3月	風船バレーボール大会

9. その他

平成29年度

月日	主 な 内 容
4/4	害虫駆除
4/15	入所判定会
5/8	カーペット清掃
5/11	害虫駆除
5/23	監事監査
5/23	レジオネラ菌検査
5/29	第1回理事会
6/10	害虫駆除
6/14	第2回理事会・第1回評議員会
7/7	害虫駆除
7/9	循環配管除菌洗浄
7/13	全館掃除
7/15	入所判定会
7/19	消防設備点検
7/26	避難通報訓練
8/7	害虫駆除
9/7	害虫駆除
10/6	害虫駆除
10/11	第3回理事会
10/14	入所判定会
10/24	第2回評議員会
11/6～7	空調点検
11/9	害虫駆除
11/11	理事会
11/27	カーペット清掃
11/30	受水槽清掃
12/8	害虫駆除
12/13	全館掃除
12/18	地震防災訓練
1/10	害虫駆除
1/12	レジオネラ菌検査
1/15	入所判定会
1/17	消防設備点検
2/5	害虫駆除
3/8	害虫駆除
3/13	第4回理事会
3/16	避難通報訓練・風水害避難訓練
3/24	地下タンク漏洩検査
3/27	第3回評議員会

別紙1

研　修　会　参　加　記　録

平成29年度

No.	日　　程	研　　修　　会　　名	開 催 地	参　加　者　氏　名	備考
1	4 月 15 日	介護支援専門員協会　総会	砥 部 町	滝下八千代	
2	4 月 27 日	中小企業同友会　総会	松 山 市	高本英昭	
3	4 月 28 日	愛媛県老施協　第1回施設長会	松 山 市	窪田里美	
4	5 月 ～ 8 月	介護支援専門員更新研修	松 山 市	滝下八千代・正岡美香	
5	5 月 17 日	愛媛県老人福祉施設大会	松 山 市	窪田里美・上岡滋・住田佳美・宮田ひふみ	
6	5 月 24 日	中予老施協　総会	松 山 市	窪田里美	
7	6 月 6 日	ポジショニング(拘縮・褥瘡予防)研修会	松 山 市	岡村奈美子	
8	6 月 17 日	聖カタリナ大学実習報告会	松 山 市	上岡滋	
9	6 月 17 日	愛媛県精神協　総会	松 山 市	矢野雄大・森平澄子	
10	6 月 20 日	男女共同参画社会作り推進県民大会	松 山 市	窪田里美	
11	6 月 23 日	障害福祉サービス事業斜塔に対する集団指導	宇 和 町	矢野雄大	
12	6 月 29 日 ～ 6 月 30 日	四国老施協　老人福祉施設関係者研究会	松 山 市	窪田里美・一木達矢・上岡滋・神川愛子	
13	7 月 4 日	「労働契約法及びその特例」「改正育児・介護休業法」等説明会	砥 部 町	権田哲郎	
14	7 月 10 日	社会福祉法人セミナー	松 山 市	窪田里美	
15	7 月 13 日	愛媛県相談支援協会　総会・研修会	松 山 市	森平澄子	
16	7 月 17 日	えひめ排泄ケア研究会	大 洲 市	住田佳美	
17	7 月 22 日	認知症フォーラムin伊予市	伊 予 市	武智正輝	
18	8 月 2 日	軽費・ケアハウス戦略会議	松 山 市	森川大	
19	8 月 30 日	伊予市介護支援専門員連絡会	伊 予 市	今井智之	
20	9 月 8 日	生活課題解決プロジェクト委員会	松 山 市	高本英昭・武智正輝	
21	9 月 13 日	平成29年度全国労働衛生週間実施要綱等説明会	砥 部 町	権田哲郎	
22	9 月 15 日	愛媛県老施協　防災研修会	松 山 市	窪田里美	
23	9 月 22 日	服薬管理研修会	松 山 市	窪田里美	
24	9 月 30 日	愛媛県精神協　研修会	松 山 市	森平澄子	
25	10 月 ～ 12 月	愛媛県認知症実践者研修	松 山 市	森田孝志・今井智之	
26	10 月 3 日	高齢者施設における事故防止研修会	宇和島市	鍋田陽二・今井智之	
27	10 月 12 日	高次脳機能障害支援普及事業(担当者会)	松 山 市	森平澄子	
28	10 月 18 日	安全運転管理者講習	砥 部 町	一木達矢	
29	10 月 26 日	医療安全研修会	松 山 市	窪田里美	
30	11 月 15 日	伊予市総合事業説明会	伊 予 市	滝下八千代・一木達矢・武智正輝	
31	11 月 22 日	介護支援専門員地域リーダー養成研修地区別演習	砥 部 町	滝下八千代	
32	11 月 28 日	男女共同参画推進中予地域ミーティング	松 山 市	高本英昭	
33	12 月 1 日	介護支援専門員実務研修にかかる見学実習指導等研修会	松 山 市	滝下八千代	
34	12 月 8 日	災害時における厨房閉鎖時等の食事の提供について	松 山 市	小川千明	
35	12 月 12 日	特定給食施設等関係者研修会	松 山 市	久保田ひとみ	

No.	日　　程	研　　修　　会　　名	開 催 地	参　　加　　者　　氏　　名	備考
36	12 月 12 日	介護職員のためのストレスマネジメント講習	松　山　市	山田麻美	
37	12 月 14 日	情報モラル啓発セミナー	松　山　市	権田哲郎	
38	12 月 15 日	看取りに関する研修会	新 居 浜 市	金山正江・酒井友子	
39	12 月 19 日	愛媛県障がい者相談支援従事者スキルアップ研修	松　山　市	森平澄子	
40	1 月 22 日	職種間の連携に関する研修会	松山市	窪田里美・森川大・一木達矢・神川愛子	
41	1 月 25 日	伊予地区在宅医療介護連携推進事業講演会	松　前　町	正岡美香	
42	1 月 28 日	伊予市老健施設救命講習	伊　予　市	泉智子	
43	1 月 29 日	地区別タウンミーティング	東　温　市	窪田里美	
44	1 月 31 日	高齢者施設等における感染症に関する研修会	松　山　市	水口秋子	
45	2 月 3 日	障がい者リハビリテーション関係職員研修会	松　山　市	矢野雄大	
46	2 月 5 日 ～ 2 月 6 日	四国老施協セミナー	高　　知	窪田里美	
47	2 月 10 日	ステップアップ研修　権利擁護・自己決定への支援	松　山　市	横山裕子・武田あけみ	
48	2 月 14 日	愛媛県要介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修	松　山　市	横山裕輝	
49	2 月 14 日	軽費・ケアハウス職員研修会	松　山　市	森川大	
50	2 月 16 日	社会福祉法人監事監査研修会	松　山　市	大本監事・窪田里美・権田哲郎	
51	2 月 21 日	介護支援専門員地域リーダー養成研修	松　山　市	滝下八千代	
52	2 月 22 日	病院及び高齢者福祉施設防火安全対策研修会	伊　予　市	住田佳美	
53	2 月 23 日	デイサービスセンター戦略会議	松　山　市	鍋田陽二・森田孝志・今井智之	
54	2 月 27 日	包括的地域福祉社会作りセミナー	松　山　市	高本英昭	
55	2 月 27 日	高次脳機能障害支援普及事業(担当者会)	松　山　市	森平澄子	
56	3 月 3 日	愛媛県精神協　フォローアップ研修	松　山　市	矢野雄大・森平澄子	
57	3 月 20 日	中予老施協　施設長会・総会	松　山　市	窪田里美・権田哲郎・亀岡幸子・一木達矢	
58	3 月 23 日	愛媛県老施協　施設長会・総会	松　山　市	窪田里美・一木達矢	
59	3 月 27 日	障害福祉サービス報酬改定説明会	松　山　市	矢野雄大	

指定介護老人福祉施設　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者の尊厳と自己決定を尊重したサービスを提供すると共に、安全と安心の中で心おだやかに暮らせる生活を援助する。

【具体的取り組み】

利用者個々の今まで培われてきた生活様式や生活習慣の把握に努め、個性や心身の状況に応じてその人らしい生活を支援する。また、生活場面においては、家庭的な環境の中で馴染みの人間関係を構築し、利用者主体の個別ケアに努めると共に、居室内でのプライバシーを確保する。

1.　利用者のニーズに沿った個別ケアと生活支援の実践

（１）食　事　（厨房との連携）

（ア）食べやすく、美味しい食事の提供

（イ）栄養ケアマネジメントの実施

（ウ）衛生管理の徹底等

（２）排　泄

① 利用者個々に合った心地よい、根拠のある排泄ケアを提供するために、事例フォーマットを活用しながら排泄用品の提供を行うと共に、排泄行為に関する援助を適切に行う。

② プライバシー及び、清潔を確保しながら利用者が安心して排泄できる環境作りに努める。

（３）入　浴

① 利用者の希望や状態を定期的に見直し、個々に合った入浴体制を整える。

② 利用者の状況に応じた入浴ケアの知識や技術を身に付け、利用者が安心して入浴できるように努める。

（４）レクリエーション・リハビリ

① 利用者の希望を適宜アセスメントしながら、個別機能訓練及び外出やレクリエーション等を実施し、また、定期的に評価を行う。

③ 離床の機会を増やすことを目指して、リクライニング車椅子の整備や、適したリハビリ用具・介護機器を提供し、生活しやすい環境を整える。

（５）ケアプラン（介護サービス計画）

① 生活歴を基に個人や家族の思いや喜び、心地よさ、生きがい等を追求するため、センター方式を使用し、ケアプランを立案実施する。

② 定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

（６）環境整備

設備及び、器具類等の点検を定期的に実施し、必要な補修、修繕等を行うと共に、利用者個々の状態に合わせて居心地の良い快適な環境の整備を行う。

＜評価＞

☑ 食事委員会での定期的な嗜好調査及び、メニュー検討等の協議を行い、利用者の希望や状態に応じた食事の提供を行った。また、食事会の活動も定着しており、今後も意欲的に参加できるよう実施方法の工夫や改善に努めたい。

☑ 個々の排泄状況に応じて、随時、排泄用品の検討見直しを行った。また、排泄チェック表の読込み不足等、部分的な問題についてはスタッフ間で更に連携を図りながら改善に努めたい。

☑ 安全に入浴できる体制確保や浴室設備、器具類の点検等、環境整備も定期的に行い、概ね適正な入浴の提供ができた。

☑ 外出行事は限定的な実施に留まっており、利用者の希望に応じた地域行事や買い物等、今後は計画的な実施を目指したい。

☑ センター方式を活用し、プラン更新時期には毎回、家族等からの情報収集を行いながらモニタリング及びプランの見直しを行った。

☑ 季節感を演出する掲示物など、利用者が和める雰囲気作り及び、家具の配置等、安全な居室環境整備に向けて各担当者において工夫を重ねた。

2. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（１）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（２）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（３）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（４）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 利用者個々の状態を把握し環境整備を行うと共に、発生した事故については原因の検証及び、再発防止に関する検討改善を行った。

☑ ヒヤリハット報告については定期的な検討、検証を行っているが十分な実施には至っておらず、今後は、重大事故予防、防止のため、積極的な活用が必要である。
☑ 発生件数はやや減少しているが、予防対策の認識不足等も見られることから、今後も検証の精度や予防対策の評価等、更なる対策強化を図りたい。

3. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。
（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。
（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。
（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 各防災計画及び、マニュアルに沿って火災、地震、風水害等、それぞれの災害発生を想定した訓練に参加し、適切な避難誘導他、対応等について確認した。
☑ 地元、泉町及び福元地区自主防災組織の関係者らを施設に招き、災害時等、緊急時における避難誘導等に関する確認作業を行った。
☑ 施設に設置している消火栓を実際に作動させての消火訓練を実施し、消火技術の向上に取り組んだ。また、携帯電話を使用して緊急時の情報収集や安否確認及び、スタッフ間の連携、協力体制に関する方法等についての確認を行った。
☑ 愛媛県主催のシェイクアウト（12 月 9 日）に愛媛県老施協間の合同参加を行い、連絡連携に努めることが出来た。

4. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。
（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身に付け、また、コミュニケーション能力を高めて、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 毎月開催する特養会ではケアの方法はじめ、接遇等に関する医療分野等、様々な

知識や技術を高める勉強会を行い、サービスの向上や業務改善に繋げた。

☑ 外部開催の各種研修会に参加し、施設内で伝達研修を行った。また、広域的な研修会等においても自施設での取り組み事例の紹介等、先進的な役割も果たすことができた。

5. 医療的サポート

利用者の健康に対する不安を取り除き、安心して過ごせるよう、看護・介護が一体となって、本人及び家族、医療機関等と連携を図り、健康管理を進める。

（１）健康診断

年２回実施し、その結果を踏まえて必要時医療に繋げる。

（２）感染症対策

勉強会や啓発活動などの年間実施計画表を立案・実施し、予防に努める。また、感染症発生時は、マニュアルに沿った対応を行う。園外研修に参加し、知識の向上を図る。

（３）健康管理

日常における一般状態の把握、自己健康管理への助言、疾病の早期発見及び事故防止と事故発生時の適切な対応を行う。

（４）ターミナルケア（終末ケア）

人生の最期を当施設で暮らすことを望まれた場合、本人や家族の希望を確認しながら嘱託医と連携し、マニュアルに沿ったターミナルケアを行う。また、穏やかで安らぎのある日々を提供できるよう支援する。

（５）褥瘡対策

褥瘡対策チームにて、褥瘡のリスク管理と褥瘡発生時の対応を適切に行う。

＜評価＞

☑ 日頃から利用者の健康管理を行うと共に、年に２回の健康診断を実施し、その結果を踏まえて医療機関と連携し、必要な受診、治療等に繋げた。

☑ 施設内での感染症の発症、蔓延等はなく、概ね適正な予防が実践できたが、利用者の一部や職員家族間での断続的な発生があったことから、今後も継続した対応、対策が必要である。

☑ 日常的な健康状態の観察及び、疾病管理については、主治医と連携しながら対応し、また、事故発生時の状態確認、観察及び、処置等についても主治医等の指示により適切に実施できた。

☑ ターミナルケアについては今年度６件の看取り介護に対応し、経過観察記録や、家族への対応、環境の整備及び、家族、職員間でのカンファレンスなど、ＰＤＣＡサイクルに準じた対応を行った

【総合評価】

＜評価＞

- ☑ 居室内及び廊下には入居者の、安全や特性に配慮した環境整備に取り組んだ。また季節ごとの装飾や写真掲示など雰囲気作りにも取り組んだ。
- ☑ 利用者に対する言葉遣い等、接遇面の改善については特養会等での勉強会を開催する中、問題点の検証や具体的な改善策等について協議を行った。
- ☑ 事故予防、防止対策については委員会等で定期的に検証を行い、発生件数はほぼ横ばいの状況であったが、事故予防対策の再評価や、ヒヤリハットの実質的な検証、検討についてはやや不十分な印象であり、今後は更に、活用しながら再発や重大事故の予防、防止に繋げたい。
- ☑ 家族会による施設清掃や行事における運営協力等、従来の活動に加え、職員との交流やケア、サービス向上を目的に施設見学を実施したが、参加者が少なかったことから今後は広報活動を強化すると共に、実施内容を工夫して参加者確保に努めたい。
- ☑ 軽介護度（介護１～２）の対象者についてはケアカンファレンスの中で定期的に在宅復帰に向けての協議、検討を行った。
- ☑ 地域貢献活動については各地区、集会所等での行事、会合等の開催に合わせて出向き、施設からの情報発信を行うと共に、地域からの要望や、課題等についての意見聴取を行った。

指定介護老人福祉施設(定員　３０名)

１．市町村別

H30.3.31

出 身 地	男　　性	女　　性	合　　計
伊予市(中山町)	9	18	27
伊予市(双海町)		2	2
伊予市(旧伊予)		1	1
合　　計	9	21	30

２．年齢構成

H30.3.31

	男性	女性	合計
～64歳			
65～74歳	1		1
75～79歳		1	1
80～84歳	3	3	6
85～89歳	3	9	12
90～94歳	2	5	7
95～99歳		2	2
100歳～		1	1
合　　計	9	21	30

平均年齢

男　　性	84歳　4ヶ月
女　　性	89歳　0ヶ月
全　　体	87歳　6ヶ月

３．在籍期間

H30.3.31

在 籍 期 間	男性	女性	合計
1年以内	2	4	6
1年以上～2年未満	3	3	6
2年以上～3年未満		3	3
3年以上～4年未満		1	1
4年以上～5年未満	2	2	4
5年以上～6年未満		1	1
6年以上～7年未満			
7年以上～8年未満		4	4
8年以上～9年未満		1	1
9年以上～	2	2	4
合　　計	9	21	30

４．身体状況

障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

H30.3.31

	男性	女性	合計
正常			
J1			
J2		1	1
A1	2	4	6
A2	3	5	8
B1		2	2
B2	3	7	10
C1	1	1	2
C2		1	1
合計	9	21	30

※「障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準」による

認知症高齢者の日常生活自立度

H30.3.31

	男性	女性	合計
正常			
Ⅰ		1	1
Ⅱa	1	2	3
Ⅱb		2	2
Ⅲa	5	8	13
Ⅲb		1	1
Ⅳ	3	5	8
M		2	2
合計	9	21	30

※「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」による

５．要介護度の推移

H30.3.31

	男性	女性	合計
要介護1			
要介護2	1	2	3
要介護3	1	3	4
要介護4	7	10	17
要介護5		6	6
合　計	9	21	30

H29.3.31

	男性	女性	合計
要介護1		2	2
要介護2		1	1
要介護3	1	2	3
要介護4	6	8	14
要介護5	2	8	10
合　計	9	21	30

H28.3.31

	男性	女性	合計
要介護1		1	1
要介護2		1	1
要介護3	1	6	7
要介護4	4	5	9
要介護5	1	10	11
合　計	6	23	29

H27.3.31

	男性	女性	合計
要介護1		1	1
要介護2		3	3
要介護3	2	4	6
要介護4	3	7	10
要介護5	3	7	10
合　計	8	22	30

	H27.3	H28.3	H29.3	h30.3
要介護1	1	1	2	
要介護2	3	1	1	3
要介護3	6	7	3	4
要介護4	10	9	14	17
要介護5	10	11	10	6
合　計	30	29	30	30
平　均	3.8	4	4	3.8

６．入退居状況

平成29年度

	在籍者数		入退居者				
	平均入居者数	のべ人数	在籍者数	入居者	退居者		
					施設死亡	病院死亡	その他
	人	人	人	人	人	人	人
4月	30.0	900	30				
5月	30.0	930	30			1	
6月	29.9	896	31	1			
7月	30.0	930	30				
8月	29.5	915	32	2	2		
9月	30.0	899	30		1		
10月	29.4	912	32	2	1		
11月	30.0	900	30				
12月	30.0	929	31	1	1		
1月	30.0	930	30				
2月	29.0	840	30				
3月	29.8	925	31	1	1		
合計		10,906		7	6	1	

稼働率

平成２９年度	99.60%
平成２８年度	100.30%
平成２７年度	100.02%
平成２６年度	99.90%

７．入院状況

平成29年度

	入院日	退院日	病　　名	日数	入院場所	備考
1	5月3日	5月31日	脳梗塞	29	済生会愛媛病院	退居
2	5月16日	5月31日	左大腿骨転子部骨折	15	奥島病院	
				44		

入院延べ日数

平成29年度	44日
平成28年度	67日
平成27年度	17日
平成26年度	17日

８．受診状況

平成29年度

	総数	内科		外科		精神科		整形		皮膚科		泌尿器科		眼科		歯科		耳鼻科		婦人科		救急
		内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	
4月	108	73			2	10			1							22						
5月	116	78	3		1	11			4						1	17	1					2
6月	121	78	2		1	17			3							20						
7月	99	68	3			10			1							17						
8月	98	71				11			1				1			14						
9月	105	69	1		1	10									1	23						
10月	119	89	1		1	10							1			15	2					
11月	109	78			1	14							1		1	13	1					
12月	107	71	1		2	10										23						
1月	95	72	1			10										12						
2月	100	69	1			10									1	17	2					
3月	95	65	2			10										17	1					
計	1,272	896		9		133		10				3		4		217						2

９．クラブ活動・レク活動

平成29年度

曜日	クラブ・レクリエーション活動
日	ビデオ鑑賞他
月	フラワーアレンジメント他
火	ふれあい時間（爪切り・耳掃除）
水	カラオケ他
木	スポーツ他
金	音 楽 クラブ
土	書 道 ・ 喫 茶

10．行事

平成29年度

	行　　事
4月	花見
5月	運動会　母の日会　フレンドリー祭り　演芸会
6月	お神楽　ホタルまつり　父の日会　焼肉パーティ
7月	風船バレーボール大会　わくわくバイキング
8月	盆踊り大会 合同慰霊祭 そうめん流し 幸せの集い　老人クラブ交流会
9月	ぶどう狩り　敬老会
10月	居酒屋「観月祭」地方祭　わくわくバイキング
11月	文化祭（野点・演芸会・バザー）
12月	クリスマス会　しめ縄作り　餅つき　忘年会
1月	歳旦祭　初詣　新年会　餅つき
2月	節分「豆まき」　わくわくバイキング
3月	風船バレーボール大会

１１．事故報告書他　別紙２

別紙2　　介護老人福祉施設　　なかやま幸梅園　　平成29年度　事故報告書

	月日	性別	事故内容	場所	事故状況	受診	対応・処置等
1	4/12	女	転倒	居室	居室前にて右側臥位で床に倒れているところを発見する	有	右腕の痛み訴えあり、念のためクリニック受診。レントゲン検査異常なく湿布にて様子観察
2	4/19	男	切り傷	浴室	浴槽から出た際に、左足第一指外側から出血しているのを発見	無	看護師にて止血後ｹﾞﾝﾀｼﾝ軟膏塗布及びｶﾞｰｾﾞ保護の処置。
3	5/15	男	転倒	居室	居室にて朝の衣類交換時に左大腿部から下腿にかけての腫れを確認し、受診	有	歩行困難にてクリニック受診レントゲン検査の結果骨折しており、救急にて奥島HPへ入院
4	6/9	男	表皮剥離	浴室	入浴の為、上衣類脱衣後、右耳近くのイボから出血しているのを発見	無	ﾃｶﾞﾀｰﾑ貼用にて入浴　その後ﾘﾝﾃﾞﾛﾝ塗布及びｶﾞｰｾﾞ保護処置
5	6/17	女	転倒	南廊下	ご主人面会中、立ち上がろうとした際にふらつき椅子と一緒に右側臥位で転倒する	無	二人介助にて席に戻り、痛み訴えなく、外傷、確認及び、バイタル測定異常なし
6	6/20	女	ずり落ち	居室	別の部屋から外に出ると居室より外に出て居座っているところを発見	無	二人介助にて車椅子移乗し、看護師報告外傷及びﾊﾞｲﾀﾙ他確認。異常なく様子観察
7	7/28	女	誤嚥	ホール	夕食時、ムセ込みあり。背部タッピングにて大きめのトマトを吐き出す	無	看護師指示にて、しばらく臥床せず様子観察。ﾊﾞｲﾀﾙ測定
8	9/3	女	内出血	不明	入浴時、脱衣した際、左肩に内出及び、脇下に若干の腫れを確認する	無	看護師報告。ﾊﾞｲﾀﾙ確認。特に痛みの様子無く様子観察。家族に報告
9	10/14	男	ずり落ち	ホール	喫茶準備中に他の利用者から車椅子より床にずり落ちているとの報告あり気付く	無	二人で車椅子へ移乗。外傷、痛み等確認し、バイタル測定。特に異常なく様子観察
10	10/14	女	転倒	ホール	椅子より前傾姿勢から更に前転する形でバランスを崩し右側臥位に転倒	無	念の為、主治医へ状態報告し、バイタル測定。変わった様子があれば連絡の指示
11	10/22	女	転倒	ホール	自力で立ち上がろうと試みたが途中、バランスを崩し、前方に倒れ込む	無	席へ移乗後、看護師にて全身外傷、痛みの有無確認。異常なく様子観察
12	11/25	男	転倒	ホール	手洗い場前にて背後から右側臥位の姿勢で足元に倒れ込む	無	全身確認、打撲痕等なくﾊﾞｲﾀﾙﾁｪｯｸ。痛みの訴え等なく様子観察。家族報告
13	11/27	女	転倒	中央トイレ	トイレ内で車椅子を背に座り込んでいるところを発見。別の利用者が介助したと思われる	無	二人介助にて車椅子に移乗　臀部確認、バイタル確認、痛み訴えなく様子観察
14	12/2	男	ずり落ち	ホール	椅子より靴を触ろううと前傾になる姿勢からずり落ち床に座り込む	無	介助に手元の席へ移乗し痛み等確認、バイタル測定異常なく様子観察
15	12/2	女	転倒	居室	別の利用者のNCで訪室すると床に横になって毛布が掛けてある状態を発見	無	介助にてベッド臥床し、全身観察外傷なく痛み訴えもなし　バイタル測定様子観察
16	12/6	女	ずり落ち	ホール	訪室するとベッド横に仰向けの状態を発見　介助し、椅子に誘導する	無	介助にて椅子に移乗。看護師報告し、ﾊﾞｲﾀﾙ確認指示。痛み、外傷等なく様子観察
17	12/11	女	ずり落ち	トイレ	別利用者の知らせで確認すると便器を背に足台に座り込んでいるのを発見	無	看護師へ報告。腰部、臀部に若干発赤あるも痛み、打撲痕なく媒体異常なく様子観察
18	12/12	女	ずり落ち	ホール	テーブル下の床に座り込んでいるのを発見　足置きを取ろうとしてずり落ち	無	二人介助にて席に移乗後、看護師報告。痛み外傷等なく　バイタル測定様子観察
19	12/14	女	ずり落ち	居室	NCにて訪室し、ベッド横に車椅子からずり落ちているのを発見	無	二人介助にてベッド移乗し、左手背痛み訴えありﾎﾞﾙﾀﾚﾝｹﾞﾙ塗布　他異常なく様子観察
20	12/17	女	ずり落ち	居室	コール有り訪室するとL字介助バーを握り床に座り込んでいるのを発見	無	介助し、ﾎﾞｰﾀﾌﾞﾙ移乗 バイタル確認外傷(－)痛み他訴えなく様子観察　家族報告
21	12/19	男	異食	ホール	フラワーアレンジメントの作品の一部（観賞用りんご）葉を口に入れているのを発見	無	声掛けし口を濯いで口腔内確認後、水分摂取し、看護師報告　様子観察指示
22	12/20	女	転倒	居室	別利用者の知らせで訪室するとベッド横で膝をついて姿勢で座り込んでいるところを発見	無	移乗介助し、看護師報告。全身ﾊﾞｲﾀﾙ他確認。異常なく様子観察※夫が介助を試みた可能性あり
23	12/27	女	転倒	ホール	落ち着かない様子で数回声掛けしていたが立ち上る動作から左側にバランスを崩し転倒	無	看護師へ報告。左腸骨に少し赤発あるも痛みなくバイタル異常なし　様子観察
24	1/3	男	転倒	ホール	独歩にて歩いているのを発見　急ぎ駆け寄るも近くのカートに縋りながら前方に転倒	無	木製ベンチに右側頭部を打撲　看護師報告バイタル確認後、しばらく頻繁に様子観察指示
25	1/14	男	転倒	居室	訪室時、ベッド横にうつ伏せになっているのを発見する	無	二人介助し、ベッド移乗 バイタル確認外傷なく、痛み訴えなし　様子観察家族報告
26	1/11	女	内出血	浴室	入浴時、左こめかみに数日経過していると見られる内出血を発見	無	全身状態確認すると右膝、外側大腿部にも内出血有り　看護師報告　痛み訴えなし
27	1/16	女	転倒	居室	夫からの依頼で訪室するとベッド横で座り込んでいるところを発見	無	移乗介助し、看護師報告。全身ﾊﾞｲﾀﾙ他確認。異常なく様子観察※夫が連れてきたとのこと
28	1/19	男	転倒	ホール	本人が声を上げながら身体を丸くして後方に転がるところを発見	無	ﾄｲﾚ誘導し、ﾊﾞｲﾀﾙ全身確認。外傷、痛みなく様子観察
29	1/23	男	転倒	ホール	ソファーから立ち上がり、急いで駆け寄るも間に合わず前方右側臥位に転倒	無	移乗介助し、看護師報告。全身ﾊﾞｲﾀﾙ他確認。外傷ないが臀部の痛み訴えあり異常なく様子観察
30	2/2	男	離園	外庭	居室、園内捜索するも居らず、外庭にいるところを発見し園内に誘導	無	介助し園内誘導、ﾊﾞｲﾀﾙ全身状態、外傷等確認、異常なく暖かい飲み物提供し様子観察
31	2/2	女	転倒	中央トイレ	トイレ内に様子を見に行くと便器前にて右側臥位に倒れているのを発見	無	介助にて移乗、全身観察異常なく　ﾊﾞｲﾀﾙ確認。失禁あり交換後様子観察
32	2/4	男	転倒	ホール	ホールよりスタッフを呼ぶ声あり、ソファー前でうつ伏せで倒れているのに気付く	無	介助し、ソファー移乗後、ﾊﾞｲﾀﾙ全身確認。額以外傷、痛みなく様子観察
33	2/9	男	転倒	ホール	テレビ前ソファー付近で尻もちをついて座り込んでいるところを発見	無	二人介助でﾍﾞｯﾄﾞ移乗、ﾊﾞｲﾀﾙ全身確認。外傷、痛みなく様子観察　血圧高く再検指示
34	2/14	女	転倒	居室	同室者のバイタル測定中に声がして確認するとベッド横で右側臥位に倒れているのを発見	無	介助にてﾍﾞｯﾄﾞ移乗、ﾊﾞｲﾀﾙ全身確認。右肘痛み訴えあり看護師指示にて痛み止め服薬様子観察
35	2/25	女	擦過傷	浴室	車椅子よりシャワーキャリーへの移乗介助中に床面にて擦り受傷する	無	看護師にてゲンタシン軟膏塗布+ガーゼ保護処置
36	2/26	男	転倒	ホール	テレビ前ソファーから立ち上がると同時に前傾にバランスを崩すが肘置きに手を付いて静止	無	移乗介助し、看護師報告。全身ﾊﾞｲﾀﾙ他確認。外傷痛み訴えなく様子観察
37	3/3	男	表皮剥離	浴室	入浴後、脱衣場にて着衣の際に左足指先から出血しているのを発見	無	擦過傷あり、止血後、ゲンタシン軟膏塗布ガーゼ保護にて様子観察

ヒヤリハット　件数　20件

苦情発生の状況

No.	月　日	性別	苦情内容	苦情状況	解決内容等
1	4月10日	男	書類に関すること	ショートステイ利用後、物品台帳に更新の為、持参させた介護保険証が返却されたかのように記載されており、紛らわしいので、気をつけて欲しい。	■電話にて記載内容の不備について謝罪。 ■関係スタッフに対して、今回の申し出内容について共有すると共に今後、記載内容の確認、徹底を図ることとした。
2	5月22日	男	入所順位の結果及び、連絡等に関すること	以前、判定で待機順位2位の結果との通知を受けていたが、そのまま何の連絡もなく、更には順位が繰り下がったことに納得できない。	■順位が繰り下がった状況や経緯について説明等の配慮に欠けた対応であったことを謝罪。 ■申込み時に入所指針の説明及び、指針内容を示す文書を交付し、署名、捺印の手続き。 ■上位通知した方で、順位が繰り下がった場合は理由、事情を電話等で告知する。

指定短期入所生活介護事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者及び、その家族のニーズや課題の把握に努め、利用者の有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、サービスを提供する。また、各関連機関との連携を図りながら、利用者の心身機能の維持向上と家族の身体的・精神的負担を軽減することにより、在宅生活が継続できるよう支援する。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）サービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（短期入所生活介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング(評価)を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

＜評価＞

☑ 利用者及び家族の希望に沿って関係機関と連携を図り、個々の身体状態や生活ニーズを踏えてながらサービス提供を行った。

☑ 定期的に状態を把握し、生活課題等を確認しつつモニタリングを実施しながら個別援助、生活支援に取り組んだ。

☑ 家族、主治医及び、担当介護支援専門員等と連携しながら体調不良者や、医療依存度の高い利用者あるいは緊急的な受け入れ等にも柔軟に対応した。

2.　機能訓練

利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。

（1）利用者の心身状況及び生活リズムに応じて、日常生活に必要な機能を維持するためのリハビリを行う。

（2）利用者個々の生活史を考慮したレクリエーション活動を提供すると共に、経過や効果等について検証し、在宅生活や関連事業所でのケアに繋げる。

＜評価＞

☑ 利用者の心身状況及び、生活リズムに応じて日常生活に必要な機能を維持するた

めの生活リハビリを実施した。また、食事会では調理活動を通して、利用者同士の交流や意欲の向上に繋がっている。

3. 健康管理

生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。

（1）サービスの利用毎に、利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康管理を行う。

（2）感染症対策については、感染症マニュアルに沿って適切に対応し、予防に努め、発生時には蔓延、拡大の防止を図る。

＜評価＞

☑ 体調に変化等があった場合には家族、介護支援専門員及び、医療機関等と連携を図りながら早期に対応することができた。

☑ 感染症については、施設内での広範囲な発症等はなかったが、職員家族や、利用者の一部、地域内では断続的に発生したことから、今後も情報収集を強化すると共に、引き続き感染症予防や食中毒も含め、衛生管理の徹底が必要である。

4. 環境整備

生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

＜評価＞

☑ 事前調査等において住環境等の確認及び、家族からの情報を得ながら安心、安全に過ごせる環境作りに取り組んだ。

☑ 心身の状況を踏まえて、安全に配慮した生活空間を提供するために、利用期間中の生活状況を細かく観察しながら適宜、改善にも繋げた。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 利用者個々の状態を把握し環境整備を行うと共に、発生した事故については原因の検証及び、再発防止に関する検討改善を行った。

☑ ヒヤリハット報告の中で緊急性の高い案件については早急に対策を講じているが、定期的な検討は行っておらず、今後に向けて改善の必要がある。

☑ 転倒リスクの高い同一利用者による事故が重なり、発生件数が増加した。重大事故の予防、防止に向けて今後も対策強化が必要である。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織との連携強化を図る。

（1）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（2）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（3）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（4）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 防災計画及び、マニュアルに沿った火災、地震、風水害等の災害発生を想定した訓練を定期的に実施し、緊急時の適切な対応及び、具体的な防災体制について確認した。

☑ 地元、泉町及び福元地区自主防災組織の関係者らを施設に招き、災害時等、緊急時における避難誘導等に関する確認作業を行った。

☑ 施設に設置している消火栓を実際に作動させての消火訓練を実施し、消火技術の向上に取り組んだ。また、携帯電話を使用して緊急時の情報収集や安否確認及び、スタッフ間の連携、協力体制に関する方法等についての確認を行った。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（1）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（2）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 毎月開催する勉強会においてケアに関する知識や技術を高める為の学習を行いサービスの向上や業務改善に繋げた。

☑ 外部開催の各種研修会に参加し、施設内で伝達研修を行った。また、全国規模の研究発表において自施設での取り組み事例を紹介する等、先進的な役割も果たすことができた。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

＜評価＞

☑ 地域内で開催される行事への参加や、定期的に地元の老人クラブ、保育園児及び、中学生との交流が実施できた。

☑ 地域住民等による各種ボランティア協力の受け入れや、施設内で開催する諸行事等を通して、情報発信や地域交流の機会となっている。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 家族、担当介護支援専門員及び、各関係機関等と連携しながらニーズや生活課題等の把握に努めると共に、心身状況の変化についても情報収集しながら概ね適正なサービス提供ができた。

☑ 居宅介護支援事業所と協力しながら、緊急的な受け入れにも柔軟に対応できたが、医療依存度の高い利用者の受け入れなど、介護ニーズに合わせて、より円滑な受入れに向けて、医療機関や他のサービス事業所等との連携強化や体制の整備が必要である。

☑ 昨年に引き続き、地域の防災組織等との協力体制整備として、泉町、福元両地区の関係者らと災害発生時の施設利用者の避難誘導方法等、緊急時対応に関する確認作業を行った。

指定短期入所生活介護（介護予防）事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者の生活課題や家族の抱える様々な問題やニーズを的確に把握すると共に、各関係機関及び、地域との連携を強化して利用者の精神的安定と身体機能の維持向上を目指した介護予防サービスを行う。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）サービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防短期入所生活介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング(評価)を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

＜評価＞

☑ 利用者及び家族の希望に沿って関係機関と連携を図り、個々の身体状態や生活ニーズを踏まえながらサービス提供を行った。

☑ 定期的に状態を把握し、生活課題を確認しつつモニタリングを実施しながら個別援助、生活支援に取り組んだ。

2.　機能訓練

利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。

（1）利用者の心身状況及び生活リズムに応じて、日常生活に必要な機能を維持するためのリハビリを行う。

（2）利用者個々の生活史を考慮したレクリエーション活動を提供すると共に、経過や効果等について検証し、在宅生活や関連事業所でのケアに繋げる。

＜評価＞

☑ 利用者の心身状況及び、生活リズムに応じて日常生活に必要な機能を維持するための生活リハビリ実施を促した。また、食事会では調理活動を通して、利用者同士の交流や意欲の向上に繋がっている。

☑ 個々の生活史や状態等を考慮してのレクリエーションの提供や、評価等は未実施であったため、今後は計画的に取り組みたい。

3. 健康管理

生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。

（1）サービスの利用毎に、利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康管理を行う。

（2）感染症対策については、感染症マニュアルに沿って適切に対応し、予防に努め、発生時には蔓延、拡大の防止を図る。

＜評価＞

☑ 家族、介護支援専門員及び、医療機関との情報共有等、連携体制は概ね確保できた。利用者の状態の変化や、円滑な受入など等に備えて今後も維持したい。

☑ 感染症については、施設内における広範囲な発症等はなかったが、職員家族や、利用者の一部、地域内では断続的に発生したことから、今後も情報収集機能を強化すると共に、衛生管理の徹底が必要である。

4. 環境整備

生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

＜評価＞

☑ 事前訪問において住環境等の確認及び、家族からの情報を得ながら安心して過ごせる環境作りに取り組んだ。

☑ 心身の状況を踏まえて、安全に配慮した生活空間を提供するために、利用期間中の生活状況を細かく観察しながら適宜、改善にも繋げた。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 利用者個々の状態を把握し環境整備を行うと共に、発生した事故については原因の検証及び、再発防止に関する検討改善を行った。

☑ ヒヤリハット報告の中で緊急性の高い案件については早急に対策を講じているが、定期的な検討は行っておらず、今後に向けて改善の必要がある。

☑ 転倒リスクの高い同一利用者による事故が重なり、発生件数が増加した。重大事故の予防、防止に向けて今後も対策強化が必要である。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（1）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（2）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（3）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（4）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 防災計画及び、マニュアルに沿った火災、地震、風水害等の災害発生を想定した訓練を定期的に実施し、緊急時の適切な対応及び、具体的な防災体制について確認した。

☑ 地元、泉町及び福元地区自主防災組織の関係者らを施設に招き、災害時等、緊急時における避難誘導等に関する確認作業を行った

☑ 施設に設置している消火栓を実際に作動させての消火訓練を実施し、消火技術の向上に取り組んだ。また、携帯電話を使用して緊急時の情報収集や安否確認及び、スタッフ間の連携、協力体制に関する方法等についての確認を行った。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（1）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（2）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 毎月開催する特養会においてケアに関する知識や技術を高める為の勉強会等を行いサービスの向上や業務改善に繋げた。

☑ 外部開催の各種研修会に担当者を派遣し、施設内で伝達研修を行い、また、自施設での取り組み事例を紹介し、先進的な役割も果たすことができた。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

＜評価＞

☑ 地域行事への参加や老人クラブ、保育園児及び、中学生との定期的な交流が実施できた。

☑ 地域住民等による各ボランティア活動や、事業所内での行事等を通して、施設からの情報発信や地域交流の機会となった。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 居宅介護支援事業所及び、家族、サービス事業所等と情報共有等、連携を図りながらサービス提供に努めた。

☑ 利用者家族の希望及び、自立支援に重点を置いたサービス提供を行った。

☑ 緊急的な利用希望の際にも柔軟な受入れ対応ができた。

☑ 地域の防災組織等との協力体制整備として、泉町、福元両地区の関係者らと災害発生時の施設利用者の避難誘導方法等、緊急時対応に関する確認作業を行った。

平成29年度　　**指定短期入所生活介護事業所 なかやま幸梅園 利用実績**

１．事業内容　区分：短期入所生活介護〔併設型〕
体制：送迎体制〔あり〕

２．開所日数　：　365 日

■ 利用定員　：　8名

■ 稼働率　：　97.9%

■ サービス期間　：　平成29年4月1日～平成30年3月31日

３．利用実績

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用者数		19	16	18	19	19	20	21	21	22	19	20	21	235
介護度別利用状況	要支援1							5						5
	要支援2				12	14	12	11	7	12	13	11	14	106
	要介護1	24	20	14	32	43	32	36	19	20	26	33	21	320
	要介護2	36	35	40	58	23	4		9	17	24	19	41	306
	要介護3	85	94	102	57	77	96	124	111	112	75	95	31	1,059
	要介護4	84	91	60	65	84	80	71	82	65	58	46	133	919
	要介護5	7	13	9	10	15	15	9	10	16	28	12	1	145
	合　計	236	253	225	234	256	239	256	238	242	224	216	241	2,860
	1日平均	7.9	8.2	7.5	7.5	8.3	8.0	8.3	7.9	7.8	7.2	7.7	7.8	7.8
送迎利用実績		82	79	59	56	71	54	56	62	70	54	58	64	765

短期入所生活介護事業所　　なかやま幸梅園　　平成29年度　事故報告書

	月日	性別	事故内容	場所	事故状況	受診	対応・処置等
1	4/20	男	衝突	居室	入浴の為ストレッチャーに移乗する際、近くのタンスに頭部が接触し出血した	無	止血後、テガダーム貼用及びｶﾞｰｾﾞ保護にて様子観察
2	4/24	男	転倒	外庭	窓の二重ロックを外し、小走りに外庭に出て、直ぐにバランスを崩し前方に転倒	有	介助して屋内に誘導。右手の痛み訴えあり、家族により病院受診の結果骨折との診断
3	5/15	女	離園	玄関	事務所から玄関ゲート付近に立っているところを発見	無	屋内誘導し、念のため、全身状態を確認し、特に外傷等無し
4	5/17	男	転倒	廊下	食堂前廊下を小走りに移動しながら手を付かず右側臥位に転倒	無	口腔内より出血あり、止血処置　両手線状の発赤あり　ﾊﾞｲﾀﾙ確認家族持参軟膏塗布にて様子観察
5	6/7	男	転倒	北廊下	夜間、廊下にて右側臥位に転倒した状態を宿直者が発見する	無	看護師報告　ﾊﾞｲﾀﾙ確認　左肩に軽度発赤左肘表皮剥離　持参軟膏塗布し様子観察
6	6/19	男	転倒	ホール	「あっ！」という他の利用者の声と同時に鈍い音がして尻餅をついているのを発見	無	トイレ誘導し臀部及び全身観察する　発赤等なく痛み確認すると腰部の痛み訴え
7	6/21	男	転倒	北廊下	洗面台前をゴミ箱を抱えて歩いているのを発見し、急ぎ駆け寄るも間に合わず転倒	無	左肘に痛み訴えあり　確認すると擦過傷あり　他特に痛み外傷等無くﾊﾞｲﾀﾙ確認後様子観察
8	6/24	男	転倒	北廊下	北トイレ前の洗面所付近で椅子の横の床に座り込んでいるのを発見	有	看護師報告後体調変化等に気をつけ様子観察　翌朝家族に報告、受診
9	6/24	男	ムカデ刺され	廊下	北トイレ洗面所まえに居り「ムカデを駆除しようとして咬まれた」との訴えあり	無	右手第1指指先にやや腫れを確認する咬み痕は確認できず
10	8/6	男	転倒	居室	居室内より声がする為訪室し、確認すると、後頭部右にたんこぶあり	無	バイタル測定し看護師報告　持参軟膏塗布　朝食は看護師確認後の指示
11	8/8	女	転倒	ホール	席より立ちあがると直ぐにバランスを崩しテーブルに縋りながら尻餅をつく	無	右肘に軽度擦過傷あり　他外傷痛みなくﾊﾞｲﾀﾙ確認後様子観察
12	8/22	女	転倒	居室	居室内より物音がして確認するとベッドを背に座り込んでいるところを発見	無	頭部右に軽度発赤あり本人捻じったと言う右腕や背部他特に外傷なし様子観察
13	9/24	男	転倒	居室	訪室した際右目から右こめかみにかけて内出血あり	無	バイタル確認　痛み伺うと「どこもかも・・」との訴え　持参軟膏塗布し様子観察
14	10/11	女	転倒	トイレ	トイレ内で車いすを背に床に座り込んでいるのを発見	無	本人伺うとトイレから車椅子に座ろうとしたら動いて座り損ねたとのこと痛み等なし
15	10/16	男	転倒	居室	居室ベッド下マットに左側臥位でいるのを発見する	無	全身観察し、背中に擦り傷を発見バイタル確認後、看護師指示にて持参軟膏塗布
16	11/12	男	転倒	ホール	他の利用者の知らせで洗面台付近でコップを持ち右側臥位に倒れているのを発見	無	介助にてトイレ誘導し全身観察　ﾊﾞｲﾀﾙ確認　膝の痛み訴えあり、外傷等なしにて様子観察
17	11/16	女	異食	ホール	テーブル席にて花瓶を前に置き、カーネーションの花を口に入れているのを発見	無	佐礼谷診療所に報告し、特に問題ないが水分補給にて様子観察の指示
18	11/22	男	転倒	ホール	洗面台前の床に座り込んでいるところを発見する	無	二人介助にてソファーに誘導両手の痛み訴えあり トイレにて臀部確認するも異常なし様子観察
19	12/2	女	ずり落ち	トイレ	トイレより下ズボンのみ履いて押し車でホールに出て来られ本人より「こけたんよ」と知らせあり	無	腰の横を擦ったとのことにて確認 トイレ入り口付近で転倒したとのこと
20	12/7	男	転倒	居室	物音に訪室すると左瞼腫れ内出血及び右頬にも腫れを発見	無	看護師報告　止血後バイタル測定　見守りの為ホールでの対応指示　様子観察
21	12/12	女	転倒	ホール	椅子より立上がり動きているのを発見　急ぎ駆け寄るも間に合わず尻餅をつく	無	車椅子移乗し痛み伺うもないとのこと　ﾊﾞｲﾀﾙ確認後様子観察
22	12/17	女	転倒	トイレ	中央トイレ入り口にて右側臥位で横になっているのを発見	無	二人介助で移乗　左眉擦り傷あり消毒しガーゼ保護右手痛み訴えあるも外傷なし様子観察
23	1/14	女	転倒	ホール	中央トイレ横ソファーから2～3歩の所で後方に転倒したと思われる	有	頭頂部付近から出血車椅子にて医務室へ移動し圧迫止血　家族連絡し来園明日受診の意向
24	1/22	女	異食	ホール	テーブル上の観葉植物の鉢の土を口に入れているのを発見	無	直ちに口腔内洗浄し、お茶にて水分補給　看護師報告し、その後異常なく様子観察
25	1/24	女	離園	玄関	居室から出て自力で玄関自動ドアから建物内に入って来る	無	機嫌悪くしばらく玄関ホールにてソファーにて過ごす。声かけするも断続的に興奮
26	2/20	女	離園	通用口	外側から職員通用口のドアを叩いているのを宿直者により発見	無	居室タンスを移動し、2重ロックを外して外庭に出て建物南側を廻り表に移動した模様
27	3/13	女	打撲	居室	本人より「ふらついて居室のタンスの角で打撲した」のと訴えあり	有	右背中辺りの痛み訴えあり　念のため受診レントゲン検査実施　骨に異常なし
28	3/20	女	ずり落ち	居室	居室よりNCあり　ベッドに座り損ねて床に尻餅をついとのこと　痛みはないとのこと	無	皮膚観察すること伝えるも「大丈夫」と拒否される為　そのまま様子観察
29	3/29	女	服薬漏れ	その他	血圧の薬が処方されていたことの情報共有ができておらず服薬漏れとなる	無	主治医確認し、服薬のタイミングについて相談し対応する。特に異常なく様子観察

ヒヤリハット件数　10件

総合福祉施設　なかやま幸梅園　厨房

【基本方針】

利用者個々の体調、身体機能等に応じた食事の提供を行い、食べる喜びを引き出し維持できるよう、食事内容の工夫を心がける。

【具体的取り組み】

1.　安全で、安心な、美味しい食事の提供

（1） 食事委員会や嗜好調査などに基づいた利用者の意思を尊重し、多職種と連携し、食事内容・食事形態の見直しを行い、より美味しく・食べやすい食事が提供できるよう工夫をする。

（2） 軟菜食やソフト食を含む、個人対応食の充実に努める。

（3） 年間計画を作成し、四季を感じられる行事食を提供する。

（4） 各事業所における、調理レクリエーション・おやつ作りレクリエーションへの提案や協力を行う。

（5） 安全で、良質な食材の確保に努める。

（6） 検食者からの意見を把握し、改善事項の必要な場合は早急な対応を行う。

＜評価＞

☑ 食事委員会において多職種と連携し、各事業所の利用者の意見を伺いながらメニューの検討、見直しを行った。

☑ 行事食、食事会、調理レク等他部署と連携しながら、業務が円滑に進むよう努めた。

☑ 嗜好調査の結果を踏まえて、リクエストの多いメニューをわくわくバイキングに取り入れるなど、利用者の要望、職員の意見を参考に食事の提供を行った。

☑ 年間計画に基づき、四季を感じられる行事食、季節のメニュー、季節のおやつを提供できた。

☑ 検食者からの意見を参考に、和え物の塩味、酸味、甘み等の調整の対応を即座に行った。

2.　栄養ケアマネジメントの実施

（1） 栄養マネジメントの流れ・進め方の見直しと検討を行う。

（2） 利用者個々の栄養状態に基き栄養管理計画書を作成し、個々に応じた栄養管理を行う。

（3） 栄養計画書の定期的評価・見直しを行い、体調管理の維持に繋げる。

（4） 利用者の自力摂食を継続できるようサポートする。

＜評価＞

☑ 栄養ケアマネジメントの流れを、関係者で検討し見直した。

☑ 特養スタッフと連携しながら利用者個々の栄養状態に基づき栄養ケア計画書を作成し、個々に応じた栄養管理を行った。

☑ 特養スタッフと連携し、利用者が自力摂取を継続できるよう取り組んだ。

3. リスク管理

（1） 食中毒及び感染症発生予防に努め、厨房内の環境衛生を常に適切な状況に保つよう衛生管理を徹底する。

（2） ヒヤリハット活動を充実させることにより、事故予防に繋げる。

（3） トラブル発生対応がスムーズに行えるようマニュアルを整備し、未然に防ぐ工夫をする。

＜評価＞

☑ 大量調理マニュアルの改訂に伴い、厨房会において改定内容を伝え、マニュアルの変更を行った。

☑ ヒヤリハット報告書を厨房職員で検討し、事故予防に繋げるよう取り組んだ。

4. 防災対策

（1） 施設内の防災訓練に積極的に参加し、非常時の行動を身に付ける。

（2） 自然災害等に備え、利用者・職員を含む備蓄品を確保する。

（3） 常に備蓄品の必要量を満たしているよう、定期的に賞味期限チェックを行い在庫管理する。

＜評価＞

☑ アルファー米の試食会を行い、アルファー米の作り方等を他事業所の職員と共有した。

☑ 自然災害等に備え、備蓄品の入替補充、追加購入を行った。

☑ 備蓄食品一覧表を基に定期的に賞味期限チェックを行った。

5. 職員教育

（1） あいさつ・言葉遣い・身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの向上を目指す。

（2） 感染を発症させない調理方法を確立するための教育を実施する。

（3） 他事業所（多職種）と連携しながら連絡体制を強化・情報を共有し、業務が円滑に進むよう対応する。

（４） 定期的に委員会を開催する。

＜評価＞

☑ 福祉施設職員マナーを身に着けるように心がけたものの、適切な言葉遣いについては今後も学習の場面を設けて継続した取り組みが必要。

☑ 感染予防の為、食中毒の研修会に参加し、研修内容を厨房職員で共有した。

☑ 大量調理マニュアルの改正に伴い、マニュアルの作成、実施、記録に努めた。

☑ 感染症の勉強会に参加して自己研鑽を深めた。

6. その他

（１） 水道・ガス・光熱費など、コスト削減（節約）への意識向上と実施。

（２） 他の事業（配食・共同住居）への積極的実施と管理の強化。

＜評価＞

☑ 水漏れ等を早期に修理対応した。

☑ 配食の容器の使用方法も検討できた。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 食事委員会にて定期的な嗜好調査を実施し、メニュー等の検討、協議を行いながら利用者の希望や状態に適した食事を提供できた。

☑ 29 年度においてはわくわくバイキングの実施回数を前年度より増やせた。

☑ 常に備蓄食品を満たしているよう備蓄食品一覧表を基に定期的に賞味期限のチェックを行った。

☑ 厨房内の清掃を定期的に開催し、エアコンのフィルター、厨房機器等の清掃を行った。

☑ コスト削減の意識を共有することで経費削減に繋がった。

ケアハウス　なかやま幸梅園

【基本方針】

入居者の生活様式や生活習慣の違いを把握し、個人に必要な援助を行うと共に、集団生活での喜びや楽しさを実感できる家庭的で温もりのある施設を目指す。

居宅介護支援事業所、在宅サービス関連機関との連携を図り、心身共に健康で充実した生活ができるよう支援する。

【具体的取り組み】

1.　健康管理

日頃から入居者の表情や状態を観察し、医療機関、家族との連携に努め、早期に対応ができるよう配慮する。

（１）定期的及び状態に応じて健康チェックを行い、必要時には医療機関及び家族への連絡調整に努める。

（２）健康診断の場の提供及び予防接種の推進を行い疾病予防、早期発見に努める。

（３）入居者の急激な体調の変化に対し、家族、医療機関等への連絡調整に努め、迅速に対応できる体制をとる。

（４）感染症や食中毒の予防に向け、日常的に手洗い、消毒、うがい等の声かけを行い、必要に応じて家族や外部への協力を依頼する。

（５）定期薬の配布及び服薬確認等の対応を行う。

（６）毎月看護師による健康相談日を設け、一層の健康管理に努める。

＜評価＞

☑ 体調不良及び、特変時には関係機関の協力を得て迅速に対応した。

☑ 健康診断の場の提供及び手続き支援を行うことで、入居者全員が健康診断を実施した。また、入居者全員がインフルエンザ予防接種を実施したこともあり、インフルエンザ発症者はなかった。

☑ 個々の状態に応じた服薬管理及び、服薬支援を行い、確実な服薬に繋げた。

☑ 随時、疾病予防に関する情報を提供することで、健康維持の意識が向上した。また、必要時には看護師の助言を得て、疾病に関する理解に繋げた。

2.　リスク管理

事故防止に努め、事故原因の検証、必要に応じた対策を講じる。

（１）身体機能維持、転倒予防に向け、足腰・口腔の体操を毎日実施する。

（２）地域包括支援センター及び、居宅介護支援事業所と連携し、安全管理に対する環境整備、個人に必要な介護用品、介護機器等の対応を行う。

（3）「ヒヤリハット」や軽度の事故についても検証し、再発防止に向け対策を講じる。
（4）外出外泊時の事故を防止するため、家族にも見守りや援助等の協力を依頼する。
（5）夜間、早朝の事故については、緊急時対応マニュアルに沿って、迅速に対応する。
（6）入居者が使用している福祉用具の点検を、定期的に実施する。

＜評価＞

☑ ほぼ毎日体操を実施することで、身体機能の維持だけではなく、心身の活性化にも繋げた。
☑ 必要時には関係機関と連携を図り、迅速に福祉用具導入の支援を行った。
☑ ヒヤリハットへの意識が低下傾向であるため、定期的に啓発し、意識向上に繋げた。
☑ 家族や関係者の協力もあり、外出及び、外泊時の事故や特変は見られなかった。
☑ 福祉用具の点検は、レンタル業者と連携を図り実施することで、不具合による事故等の発生は見られなかった。

3. 自立生活の支援

安心してケアハウスでの自立生活が継続できるよう支援する。

（1）定期的に本人、家族、介護支援専門員、サービス関係機関及び、ケアハウス職員による担当者会議を行い、自立支援に向けた体制作りに努める。
（2）日常生活に援助を必要とする入居者には、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所と連携し、本人及び家族等の要望に沿った各種福祉サービスが利用できるよう配慮する。

＜評価＞

☑ 定期的に開催される担当者会議に出席し、日常の様子や必要な支援等の助言を行った。また、必要なサービスや支援等、適宜確認することで迅速なサービス及び支援の導入に繋げた。

4. 相談、助言、苦情処理

入居者や家族等からの相談、要望、苦情等には誠意をもって対応する。

（1）入居者及び家族からの相談、要望、苦情等には迅速かつ柔軟に対応する。また、必要時には専門職からのアドバイスも交え、適切な助言に努める。
（2）毎月入居者懇談会を実施し、苦情、要望等の確認及び対応に努める。
（3）必要に応じて家族との懇談会を開催し、施設の方針や情報の提供を行うと共

に家族からの意見、要望に迅速に対応する。

＜評価＞

☑ 入居者及び、家族からの相談等には迅速かつ柔軟に対応を行った。また、必要時には専門職からの助言も行なった。

☑ 毎月入居者懇談会を実施し、施設の方針や動向、必要な情報を伝達した。併せて入居者の意見、要望等を確認し、必要な支援及び対策を実施した。

☑ 入居者及び家族からの質問や要望に、迅速かつ柔軟に対応を行った結果、苦情は発生しなかった。

5. アクティビティサービス

入居者同士の親睦及び、心身の活性化を図る活動や行事を計画し実施する。

（1）入居者の希望及び、状態に応じた活動を計画し実行する。

（2）入居者の要望に応じた外出、外食を実施する。

（3）創作する喜び、花木を育てる楽しみが味わえる活動を提供する。

（4）ボランティアの協力を得て、楽しく活動に参加できるよう支援する。

＜評価＞

☑ 適宜、外出行事等の希望を確認し、要望に沿った外食や外出活動、地域行事への参加を実施することで、喜び、生きがいに繋げた。

☑ クラブ活動を通じ、創作活動や園芸活動を実施することで、創作する楽しさ、育てることの喜びに繋げた。また、ボランティアの協力も得て、より楽しく充実した活動を提供した。

6. 防災対策

定期的に災害訓練を実施し､火災をはじめ地震､風水害等災害発生時に迅速かつ、適切な避難行動ができるよう入居者、職員の防災意識の向上を図る。

（1）定期的に防災訓練を実施し、日頃から災害についての説明や話し合いを行い意識の向上に努める。

（2）公用スペース及び居室内の家具類転倒防止等、安全点検を行い、必要な対策を講じる。

（3）電気機器や火の取り扱いについて入居者に注意を呼び掛けると共に、定期的に点検を実施する。

＜評価＞

☑ 施設が実施する防災訓練に、ほとんどの入居者が参加した。定期的に訓練を行うことで、防災に関する意識が向上した。

☑ 定期的に防災に関する情報を提供することで、家具の転倒防止や、火災予防等へ

の意識が高まり、入居者自身が自発的に予防対策を講じている。また、必要時には適切な助言を提供することで、より徹底した予防策に繋がった。

7. 職員間の連携と質の向上

検討課題の発生時は、職員間で早急に検討し、統一した対応や支援が行えるよう努める。

（1）報告、連絡、相談を徹底すると共に、定期的にケアハウス会議を開催し、統一した処遇を行う。

（2）研修会、講習会、勉強会等に積極的に参加し、知識の向上、技術の習得に努める。

（3）各事業所からの情報収集に努め、施設全体の動向に対処する。

（4）自らの接遇のあり方について適宜、職員間で話し合いを行い入居者、来園者に対し、質の高い接遇を目指す。

＜評価＞

☑ 定期的にケアハウス部会を開催し、統一した対応及び支援を行った。また、職員間での連絡ノートを活用し、他事業所を利用する入居者への処遇統一にも繋げた。

☑ 定期的に開催される社会福祉協議会主催のケアハウス部会に参加し、ケアハウスを含めた経費老人ホームの動向等を把握した。

☑ 接遇のあり方については常時、感謝の気持ちで対応するよう意識を高めているところではあるが、今後も定期的に評価、見直しを実施する必要がある。

8. 環境整備

施設内の器具の点検、不良箇所の修繕を行う。

（1）定期的にベランダの清掃、物置き等の整理整頓を行う。

（2）居室内の建具、電気器具等の点検修理、及び必要に応じた取り換え等を実施する。

＜評価＞

☑ 定期的に、ベランダを含めたケアハウス内の清掃及び環境整備を実施した。

☑ 機器や設備等、不具合が見られた場合には早期に修繕及び交換を実施した。大きな破損、修繕は見られていないが、経年劣化等による交換、修繕等は今後増加す

9. 地域貢献

地域住民との積極的な交流を図る。また、施設周辺の清掃作業等行い、環境美化にも貢献する。

（1）市が管理する幸梅園上り坂付近の土止め箇所の草引き及び清掃を行う。

（２）土止め箇所に植える芝桜を入居者と共に挿し木する。

（３）地域の夏祭りや行事､運動会など積極的に参加し､地域住民との交流を図る。

＜評価＞

☑ ボランティアの協力を得ながら、土止め箇所の草引き及び清掃作業を適宜、実施した。

☑ 芝桜の挿し木は、未実施。芝桜が大雨等の影響で流れていることから、流れないよう対策を講じる必要性がある。

☑ 佐礼谷、野中地区の納涼祭に入居者と共に参加し、地元住民との交流支援に繋げた。また、29 年度は平沢地区の納涼祭にも参加し、交流支援に繋がったことから、今後も継続して参加予定である。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 適宜、入居者の状態、要望等の確認を行い、必要な支援及びサービスの導入に繋げた。結果、要望に沿った自立生活の継続に繋がっている。

☑ 季節に応じた外出行事やクラブ活動を立案、実施すると共に、地域と関わる支援を行うことで生きがい作りに繋がった。

☑ 入院者も 3 名見られたが､関係機関と連携を図ることで迅速に対応を行うことができた。

ケアハウス　なかやま幸梅園

１．入居者状況（H30.3.31現在）

・定員　１５名　　《一人部屋　１３室　　二人部屋　１室》

・出身地状況　（単位：人）

出　身　地	男　性	女　性	合　計
中　山　町	4	9	13
双　海　町	1		1
合　計	5	9	14

・年齢構成　（単位：人）

年齢層	男　性	女　性	合　計
61歳～70歳	1		1
71歳～80歳	2		2
81歳～90歳	2	5	7
91歳～100歳		4	4
合　計	5	9	14

・平均年齢

全　体	84.5歳
男　性	75.6歳
女　性	89.4歳

最高年齢 95 歳 7 ヶ月
最低年齢 63 歳 2 ヶ月

・在所期間状況　（単位：人）

期　間	男　性	女　性	合　計
１年未満		2	2
１年以上～２年未満		1	1
２年以上～３年未満	4	2	6
３年以上～４年未満		2	2
４年以上～５年未満	1		1
５年以上～６年未満			
６年以上～７年未満		2	2
合　計	5	9	14

・月別入居率状況（月始めの入居人数）　（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	平均
25年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15.0
26年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	15	15	14.9
27年度	15	15	15	14	15	15	15	14	14	15	15	14	14.6
28年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15.0
29年度	14	14	14	15	15	14	15	15	15	15	15	15	14.7

・入居者　　2 名　　平成30年3月31日現在

性　別	年　齢	出　身　地	入居年月日
女　性	82 歳	伊予市中山町	平成29年6月15日
女　性	84 歳	伊予市中山町	平成29年10月1日

・退居者　　2 名　　平成30年3月31日現在

性　別	年　齢	年　月　日	入居期間	理　　由
女　性	93歳	平成29年8月30日	7年0ヶ月	常時介護が必要
女　性	91歳	平成30年3月23日	7年9ヶ月	常時介護が必要

２.入居者心身状況　　()内は平成28年度状況　　平成30年3月31日現在（単位：人）

障害老人の日常生活自立度（寝たきり度）				認知症老人の日常生活自立度・障害自立度			
ランク	男	女	合計	ランク	男	女	合計
正常	0(0)	0(0)	0(0)	正常	2(2)	3(3)	5(5)
J-1	1(2)	3(2)	4(4)	Ⅰ	0(0)	2(3)	3(3)
J-2	3(2)	4(2)	7(4)	Ⅱ	0(0)	1(0)	0(0)
A-1	0(0)	1(3)	1(3)	Ⅱa	0(1)	0(0)	1(1)
A-2	1(0)	1(2)	2(2)	Ⅱb	3(1)	3(2)	3(3)
B-2	0(1)	0(0)	0(1)	Ⅲa	0(1)	0(1)	2(2)
合計	5(5)	9(9)	14(14)	合計	5(5)	9(9)	14(14)

３．要介護度状況　　平成30年3月31日現在（単位：人）

介護度	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	合計
25年度	4	2	3	5		1		15
26年度		4	1	8		2		15
27年度		5	4	3		3		15
28年度	1	2	3	7		1		14
29年度	1	3	3	7				14

４．在宅福祉サービス利用状況　　家事、身体、訪問リハは１週間の利用状況(単位：時間)
通所介護、短期入所は29年度の利用合計日数

利用種別	家事援助	身体介護	訪問リハ	通所介護	短期入所	利用時間
25年度	16.0（10名）	17.0(10名)		59日(1名)	168日(2名)	33.0(11名)
26年度	23.0（15名）	19.0(11名)		6日(1名)	97日(2名)	42.0(15名)
27年度	21.3（15名）	22.6(11名)		141日(4名)	57日(4名)	43.9(15名)
28年度	18.0（13名）	16.5(7名)	0.8(1名)	384日(4名)	9日(1名)	34.5(13名)
29年度	17.6（12名）	12.0(4名)	1.2(1名)	648日(7名)	5日(1名)	29.6(13名)

５．受診状況

（　）内は受診者数

月	内科	精神科	脳外科	歯科	整形外科	泌尿器科	その他	合計回数
4	12(8)	1(1)	2(2)	3(3)	3(2)	1(1)		22(17)
5	11(8)	1(1)	2(2)	4(2)	3(2)	2(2)		23(17)
6	16(10)	2(1)	1(1)	3(2)	5(4)		1(1)	28(19)
7	16(9)	1(1)	1(1)	3(2)	3(3)	1(1)	1(1)	26(18)
8	15(9)	1(1)	2(2)	5(3)	3(3)			26(18)
9	11(8)	2(1)	2(2)	5(2)	2(2)	1(1)	1(1)	24(17)
10	18(12)	1(1)	2(2)	1(1)	5(4)	1(1)		28(21)
11	10(8)	1(1)	1(1)	2(2)	5(3)	2(2)	2(2)	23(19)
12	16(10)	2(1)	3(3)	2(2)	3(2)	1(1)	1(1)	28(20)
1	9(8)	1(1)	2(2)	1(1)	3(3)			16(15)
2	9(8)	1(1)		3(3)	2(2)	1(1)	1(1)	17(16)
3	8(7)	1(1)	2(2)	2(1)	5(3)			18(14)
合計回数	151(105)	15(12)	20(20)	34(24)	42(33)	10(10)	7(7)	279(211)

・対比受診状況

受診科目	内科	精神科	脳外科	歯科	整形外科	眼科	その他	合計
25年度	68	4	3	14	23	7	3	122
26年度	79	13	3	22	17	4	0	138
27年度	100	12	9	19	3	4	6	153
28年度	182	13	26	35	43	1	2	302
29年度	151	15	20	34	42	0	17	279

６．入退院状況

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	合計
25年度人数		1	1		1	1	1	1				1	7
入院日数		15	7		19	30	30	4				22	127
26年度人数	1	1	1		1					1			5
入院日数	30	31	2		2					13			78
27年度人数		1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	1	15
入院日数		15	6	26	20	20	5	29	30	43	56	14	264
28年度人数												1	1
入院日数												10	10
29年度人数	1					1					1	1	4
入院日数	12					10					13	23	58

・個人別入院状況

性別	年齢	入院期間	入院日数	病名	入院先
女性	89	平成29年4.13～29.4.24	12日	心不全	松山市民病院
男性	83	平成29年9.18～29.9.27	10日	肺炎	平成脳神経外科病院
女性	89	平成30年2.16～30.3.23	26日	腰椎圧迫骨折	愛媛医療センター

７．事故状況

No.	月　日	性別	事故内容	場所	事故状況	受診	対応・処置等
1	5月16日	男性	転倒	娯楽室	ふらついて転倒	有	様子観察
2	8月19日	女性	転倒	居室	つまずいて転倒	有	様子観察
3	8月25日	女性	転倒	食堂	足が椅子に引っ掛かり転倒	無	様子観察
4	10月19日	女性	転倒	2F廊下	床に躓き転倒	無	様子観察
5	11月18日	女性	転倒	2F廊下	床に躓き転倒	有	患部を冷却し保護
6	2月16日	女性	転倒	居室	床に躓き転倒	有	入院

・過去4年間との比較

単位：件数

年度	転倒	尻もち	誤嚥	ずり落ち	表皮剥離	誤薬	その他	合計	ヒヤリハット
25	6		2	1			2	11	10
26	6			1			1	8	11
27	4			1		3	1	9	7
28	6			1		1		8	15
29	6							6	10

８．月別外泊状況

老人保健施設、短期入所、入院含む

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	合計
H25.人数	2	1	1		3	1	2	1	1	1		3	16人
日　数	2	14	7		21	30	33	3	2	3		21	136日
H26.人数	3	1	2	1	2	1			1	2		2	15人
日　数	31	30	3	1	10	1			1	12		2	91日
H27.人数		2	1	1	2	3	2	2	5	5	4	2	29人
日　数		16	5	25	49	61	31	31	35	47	64	14	378日
H28.人数	1	2	2	3	3	2	2	1	2	2		1	21人
日　数	1	2	4	8	13	2	2	1	6	6		13	58日
H29.人数	2			1	3	1		1	3	2	3	1	17人
日　数	14			1	11	10		3	3	5	15	22	84日

９.クラブ活動

曜日	クラブ活動名	ボランティア名	平均参加人数
日	ビデオ観賞	職員にて	12名
月	調　理	職員にて	10名
火	生け花	職員にて	7名
	レクリエーション	職員にて	12名
水	買い物	職員にて	4～5名
	手 芸	高本博美・宮田作美	11名
木	ひまわりクラブ	西岡芳教	11名
金	音楽クラブ	一色康子　　(特養ホール)	4名
土	喫　茶	職員にて	11名

１０．年間行事及び交流会

月	行　　事　　名
4	お花見会・外出(内子町石畳・伊予市谷上山)・期日前投票・泉町れんげ祭り
5	ドライブ（大洲市冨士山）・母の日会・20周年祝賀会・運動会
6	お神楽(野中)・ドライブ(内子町)・ほたる祭り・父の日会・焼肉パーティー
7	お山開き参拝・風船バレー大会・外出(砥部町・宇和町)・防災訓練・平沢祭り見学
8	盆踊り大会・幸せの集い・合同慰霊祭・そうめん流し・野中地区納涼祭見学
	佐礼谷納涼祭見学
9	ぶどう狩り(添賀)・敬老会
10	運動会見学(保育所)・観月祭・期日前投票・餅つき・地方祭・入居者健康診断
	外出(久万高原町)
11	文化祭・外出(久万高原町)・佐礼谷きてみん祭見学
12	防災訓練・クリスマス忘年会・餅つき、しめ縄作り
1	初詣・歳旦祭・新年会
3	風船バレー大会・避難訓練・外出(久万高原町)

指定通所介護事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）サービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

＜評価＞

☑ サービス担当者会議等で利用者の状態や家族の希望、要望の把握に努め、通所介護計画書を作成できた。

☑ 毎月ケアカンファレンスを開催し、また6ヶ月毎にモニタリング（評価）を実施することで、利用者個々に合わせたサービスに繋がった。

2. 機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（1）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（2）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

＜評価＞

☑ 全体での体操及び、口腔リハビリに加え、利用者の状態に合わせたリハビリを継続的に実施できた。

☑ 調理レクやおやつ作りを職員と一緒に実施するなかで、利用者同士が協力し、意

欲が向上した。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

＜評価＞

☑ 利用中に体調不良等が生じた場合は、担当介護支援専門員、家族及び主治医との連携により、迅速な対応ができた。

☑ 感染症マニュアルに沿った対応と、発生時の適切な対応に努めた。今後も意識向上のために継続的な勉強会が必要である。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（1）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（2）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

＜評価＞

☑ 季節感を取り入れた創作活動を行うことができた。また、利用者と相談しながら希望のレクリエーションを実施することができた。

☑ 定期的に外出を計画し、実施することができた。

☑ 「体操付きカラオケ機」を定期的に使用し、多くの利用者の満足を得た。

☑ 集団でのレクリエーション以外にも、少人数でできるレクリエーション（囲碁・将棋等）を提供し、利用者個々のニーズに合わせた意欲的にできるレクリエーションメニューを提供できた。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面

的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 介護用品や備品は定期的に点検を行うことができた。

☑ 利用者の状態をできる限り把握し、起こりうる事故を想定してケア内容の検討や環境整備を行ったが、今後も更に検討していく必要がある。

☑ 事故発生時には、迅速に対応し、職員間で再発防止策について協議した。また、リスク管理については、更に職員の意識の向上を図り、再発防止に努めたい。

☑ ヒヤリハットを定期的に検証することで、職員間の意識を統一し事故防止に繋がった。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 併設の事業所と連携を図り、避難訓練を年２回と地震に関する避難訓練を１回、及び風水害の避難訓練を１回実施し、非常災害時、緊急時の対応について確認した。

☑ 避難訓練の際、利用者も参加し、利用者個々の防災意識が高まった。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 施設内外で開催される研修・勉強会に参加、及び事業所独自の勉強会を開催する事で、専門知識や技術を習得した。また、デイサービス会議を開催し、利用者の介護方法や業務内容についても話し合うことができた。

☑ 言葉遣い、身だしなみ等について話し合い、職員としてふさわしい言動に努めた。今後も目標を立て、定期的に評価を行うことで、利用者の立場に立った介護に努めたい。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

＜評価＞

☑ くりのみフレンドリー祭りに参加し、地域住民との交流を図ることができた。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（1）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（2）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（3）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

＜評価＞

☑ 地域行事に利用者と一緒に参加できた。

☑ 同じ地域の利用者からの勧めや、各関係機関と連携を図ることによりサービスを必要としている人に対し早期のサービス開始へと繋がった。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 利用者の状態に合わせて短時間の利用等、希望に沿った柔軟な対応ができた。

☑ 定期的な勉強会の実施により、職員の知識・技術が向上した。また、接遇に関しては３ヶ月毎に目標を立て、実施・評価することができ、意識の向上に繋がった。

☑ 季節に応じた外出行事に加え、外食・買い物や、室内で行うレクリエーションについて、利用者と相談しながら計画、実施できた。

☑ デイサービス会議を行い、利用者の重度化に対応できるよう統一したケアを心

掛けた。今後も計画的に実施し、関係機関との連携も密に行い、利用者が安心してサービスを利用できるよう努めたい。

☑ 利用者の状態変化に対し、早期に発見・対応できるよう、日頃から家族や医療機関、介護支援専門員と連携を図ることができた。

☑ 利用者と共に地域行事に参加できた。また、同じ地域の利用者からの勧めや関係機関との連携により早期の利用に繋がった。今後は地域のサロン等に参加し、事業所の取り組みを伝えたり、困りごとを聞くことで地域貢献に繋げたい。

指定通所介護（介護予防）事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）サービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

＜評価＞

☑ サービス担当者会議等で利用者の状態や家族の希望、要望の把握に努め、通所介護計画書を作成できた。

☑ 毎月ケアカンファレンスを開催し、また6ヶ月毎にモニタリング（評価）を実施することで、利用者個々に合わせたサービスに繋がった。

2. 機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（1）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（2）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

＜評価＞

☑ 全体での体操及び、口腔リハビリに加え、利用者の状態に合わせたリハビリを継続的に実施できた。

☑ 調理レクやおやつ作りを職員と一緒に実施するなかで、利用者同士が協力し、意

欲が向上した。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

＜評価＞

☑ 利用中に体調不良等が生じた場合は、担当介護支援専門員、家族及び主治医との連携により、迅速な対応ができた。

☑ 感染症マニュアルに沿った対応と、発生時の適切な対応に努めた。今後も意識向上のために継続的な勉強会が必要である。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（1）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（2）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

＜評価＞

☑ 季節感を取り入れた創作活動を行うことができた。また、利用者と相談しながら希望のレクリエーションを実施することができた。

☑ 定期的に外出を計画し、実施することができた。

☑ 「体操付きカラオケ機」を定期的に使用し、多くの利用者の満足を得た。

☑ 集団でのレクリエーション以外にも、少人数でできるレクリエーション（囲碁・将棋等）を提供し、利用者個々のニーズに合わせた意欲的にできるレクリエーションメニューを提供できた。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面

的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 介護用品や備品は定期的に点検を行うことができた。

☑ 利用者の状態をできる限り把握し、起こりうる事故を想定してケア内容の検討や環境整備を行ったが、今後も更に検討していく必要がある。

☑ 事故発生時には、迅速に対応し、職員間で再発防止策について協議した。また、リスク管理については、更に職員の意識の向上を図り、再発防止に努めたい。

☑ ヒヤリハットを定期的に検証することで、職員間の意識を統一し事故防止に繋がった。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（1）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（2）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（3）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（4）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 併設の事業所と連携を図り、避難訓練を年２回と地震に関する避難訓練を１回、及び風水害の避難訓練を１回実施し、非常災害時、緊急時の対応について確認した。

☑ 避難訓練の際、利用者も参加し、利用者個々の防災意識が高まった。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（1）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（2）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 施設内外で開催される研修・勉強会に参加、及び事業所独自の勉強会を開催することで、専門知識や技術を習得した。また、デイサービス会議を開催し、利用者の介護方法や業務内容についても話し合うことができた。

☑ 言葉遣い、身だしなみ等について話し合い、職員としてふさわしい言動に努めた。今後も目標を立て、定期的に評価を行うことで、利用者の立場に立った介護に努めたい。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

＜評価＞

☑ くりのみフレンドリー祭りに参加し、地域住民との交流を図ることができた。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（1）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（2）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

（3）地域住民が抱える福祉ニーズを把握し、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウを提供することで、地域福祉の充実を図る。

＜評価＞

☑ 地域行事に利用者と一緒に参加できた。

☑ 同じ地域の利用者からの勧め相談及び、各関係機関と連携を図ることによりサービスを必要としている人に対し早期のサービス開始へと繋がった。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 利用者の状態に合わせて短時間の利用等、希望に沿った柔軟な対応ができた。

☑ 定期的な勉強会の実施により、職員の知識・技術が向上した。また、接遇に関しては３ヶ月毎に目標を立て、実施・評価することができ、意識の向上に繋がった。

☑ 季節に応じた外出行事に加え、外食・買い物や、室内で行うレクリエーションについて、利用者と相談しながら計画、実施できた。

☑ デイサービス会議を行い、利用者の重度化に対応できるよう統一したケアを心掛

けた。今後も計画的に実施し、関係機関との連携も密に行い、利用者が安心してサービスを利用できるよう努めたい。

☑ 利用者の状態の変化に対し、早期に発見・対応できるよう、日頃から家族や医療機関、介護支援専門員と連携を図ることができた。

☑ 利用者と共に地域行事に参加できた。また、同じ地域の利用者からの勧めや関係機関との連携により早期の利用に繋がった。今後は地域のサロン等に参加し、事業所の取り組みを伝えたり、困りごとを聞くことで地域貢献に繋げたい。

平成29年度

指定通所介護事業所 なかやま幸梅園

1．事業内容　　区分：通所介護〔併設型〕利用定員 30名
体制：入浴介助体制〔あり〕

2．開所日数　　：　313　日

3．利用実績

（単位：人）

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
登録人数		86	89	86	88	86	84	83	81	80	81	83	83	1,010
実利用人数		79	81	79	77	74	79	76	74	74	74	75	75	917
介護度別利用者数	要支援1･2	121	150	144	122	105	120	119	118	109	103	86	124	1,421
	要介護1	301	323	312	341	351	400	406	361	339	307	275	315	4,031
	要介護2	102	71	42	34	39	26	21	38	45	46	65	118	647
	要介護3	99	101	111	101	127	130	119	127	117	88	97	90	1,307
	要介護4	33	52	42	33	33	30	33	23	23	19	15	32	368
	要介護5	14	16	15	14	14	13	12	13	10	8	10		139
	合　計	670	713	666	645	669	719	710	680	643	571	548	679	7,913
1日平均		26.4	26.4	25.6	24.7	24.4	27.6	27.3	26.1	24.7	21.1	22.8	25.1	302.2
月～土曜日平均		26.4	26.4	25.6	24.7	24.4	27.6	27.3	26.1	24.7	21.1	22.8	25.1	302.2
開所日数		25	27	26	26	27	26	26	26	26	27	24	27	313
延べ入浴者数		508	570	537	492	532	589	578	509	513	468	453	556	6,305
平均入浴者数		20.3	21.1	20.6	18.9	19.7	22.6	22.2	19.5	19.7	17.3	18.9	20.6	241.4

4．要介護度別利用者状況

介護度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
要支援	24	25	24	21	18	19	19	18	18	18	17	19	240
要介護1	27	29	28	33	32	37	35	33	31	32	31	28	376
要介護2	12	9	8	8	6	4	4	7	7	9	8	12	94
要介護3	10	11	12	9	12	14	13	12	14	11	14	11	143
要介護4	5	6	6	5	5	4	4	3	3	3	3	5	52
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		11
合　計	79	81	79	77	74	79	76	74	74	74	74	75	916

５．介護度別利用者年齢構成

平成30年3月31日現在

介護度	要支援		要介護１		要介護２		要介護３		要介護４		要介護５		合計
性別 / 年齢階層	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
64歳以下													
65歳～69歳				1			1						2
70歳～79歳	1	3			1			1	1	1			8
80歳～89歳	2	11	5	12	1	4	2	5		1			43
90歳以上	2	1	4	9		6	1	5		2			30
総計	20		31		12		15		5				83

６．年間利用状況推移

月 / 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成25年度	606	604	564	630	604	564	616	580	593	573	570	609	7,113
平成26年度	683	683	654	659	585	607	643	582	526	508	523	547	7,200
平成27年度	512	546	537	542	521	499	570	551	591	476	552	585	6,482
平成28年度	587	604	618	674	685	631	648	623	641	623	598	655	7,587
平成29年度	670	713	666	645	669	719	710	680	643	571	548	679	7,913

７．事故発生の状況

No.	月　日	性別	事故内容	発生場所	事故状況	受診	対応・処置内容等
1	4月1日	女	その他（小傷）	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	点眼しようとした際、左手首の傷を発見　原因は分からず	無	血液付着拭き取りガーゼ保護
2	6月16日	女	配膳ミス	食堂	盛りきりでお粥提供の方に白ごはん提供	無	お粥に交換
3	6月29日	女	配薬ミス	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	薬が連絡ノートに入っておらず、本人に確認するも忘れたとの事だったが、夕方本人が薬を持っていた	無	家族に連絡し、昼の薬は中止す
4	7月7日	男	配薬ミス	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	連絡ノート入れより薬が出てくる	無	BD測定　本人と相談し昼の薬中止
5	8月23日	男	その他（小傷）	浴室	シャワーキャリーから椅子に移動しようとした際、傷を発見	無	止血しカットバン保護
6	10月10日	男	表皮剥離	浴室	上着を脱いでいる時に右手首表皮剥離	無	ｶﾞｰｾﾞ保護
7	10月14日	男	目薬返却ミス	自宅	ヘルパーより別の利用者の目薬が入っていたと連絡	無	使用していないか確認、使用しないように声かけ
8	10月24日	男	ずり落ち	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	ベッドから起き上がる時におしりからずり落ち	無	バイタル確認全身観察
9	11月3日	女	転倒	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	トイレに行く時に椅子に引っかかり左側臥位で転倒	無	バイタル確認全身観察
10	11月23日	女	異食	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	来園後手洗い時ハンドソープを口にする	無	口をゆすいでもらい様子観察
11	12月21日	女	ずり落ち	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	車椅子で座っていた時に、前方にずり落ち	無	バイタル確認全身観察
12	1月5日	男	ずり落ち	自宅	ベッドに移動中座りが浅くベッドよりずり落ちる	無	全身チェック
13	2月13日	女	配膳ミス	食堂	盛り切り（減塩汁）の利用者に普通食を提供する	無	減塩汁の利用者の為水分を多く提供する
14	2月16日	女	ずり落ち	浴室	シャワーキャリーに座る際、勢いよく座りずり落ちる	無	バイタル測定　全身チェック
15	2月17日	女	配膳ミス	食堂	盛りきりでワカメがダメな利用者の汁にワカメが入っていた	無	ワカメ無しの味噌汁と交換する。水分多めに摂ってもらい、様子観察
16	2月19日	女	薬の重複	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	昼の服薬2時間後、同じ薬を出され服薬していた	無	水分多めに摂ってもらう。主治医に対応確認
17	3月23日	女	転倒	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	昼食後デイルームに入る際、自分の杖に躓き転倒する	無	バイタル測定、全身観察、湿布貼用

ヒヤリハット件数　38件

８．苦情発生の状況

該当なし

指定居宅介護支援事業所　なかやま幸梅園

【基本方針】

自宅において、その有する能力に応じた自立生活が営めるよう、利用者、家族と一緒に考え、個々の解決すべき課題、その心身の状況や置かれている環境等に応じて保健・医療・福祉にわたるサービスが、総合的かつ効率的に提供できるよう支援する。

【具体的取り組み】

1.　介護保険最新情報の把握・家族への説明

介護保険制度改正の対応を適切に行い、利用者・家族が安心してサービスを利用できるよう情報提供を行うと共に、サービス関係機関との連携を密に行う。

＜評価＞

☑ 必要な説明会に参加し、改正についての情報収集を行ったが、加算等の決定が年度末ぎりぎりになってしまったため、利用者・家族への説明が十分できなかった。

☑ サービス関係機関との連携が不十分であったため、利用者・家族やサービス事業者に迷惑をかけてしまった。

2.　居宅サービス計画の充実

利用者の心身の状態や環境、生活歴を把握すると共に、課題等を分析し、本人の力を引き出せるようなサービスを利用者・家族・サービス担当者等を含めて検討することで、その人らしい生活ができるようにケアプランを作成する。

安全で安楽に過ごせるように、自宅での生活動線を把握し、環境を整える。

＜評価＞

☑ 認定調査への同行やサービス事業者からの情報収集を行い、状態を把握し、利用者・家族の意向を踏まえたケアプランが作成できた。

☑ 必要に応じて住宅改修や福祉用具購入、福祉用具レンタル等、生活しやすいように環境整備を行った。

3.　サービスの評価

毎月の訪問時に、利用者の心身状態及び生活状況を把握すると共に、サービス事業者の意見を参考に、計画が適切であるかを確認しながら援助目標の達成度を毎月評価し、計画見直しが必要な場合には担当者会議へ繋げる。

＜評価＞

☑ 訪問時の状況確認と各事業所からの評価を参考にして目標の達成状況を確認できた。状態が変わった時には、区分変更申請を行い、サービス担当者会議を開催

し、ケアプランの見直しを行った。

4. 医療と介護の連携

医療と介護の継ぎ目のないサービスを効果的に利用できるようにする観点から、入院時や退院・退所時に病院等と連絡を取り合い、利用者に関する情報共有を行う。

＜評価＞

☑ 入院時、病院に連絡をとり、入院前の在宅での生活状況等の情報提供ができた。

☑ 家族や病院等と連絡を取りながら、退院退所前には状態確認の訪問を行い、在宅に帰ってからの計画について話し合うことができた。

5. 認知症高齢者・独居高齢者等の支援及び地域貢献

認知症や独居になっても住み慣れた地域での生活が継続できるように、地域との繋がりを保つケアマネジメントを実施し、在宅介護支援センターと協力しながら地域貢献を行う。また、緊急時の対応がスムーズに行えるよう、連絡先の再確認や、緊急災害時連絡一覧の更新を行う。

＜評価＞

☑ 家族への連絡の他、状況に合わせてサービス事業所、主治医、民生委員、高齢者家庭相談員等とも連絡を取りながら、自宅での生活が継続できるよう努めた。

☑ 体調の悪化や認知症重度化等により、自宅での生活が困難になった場合には施設入所がスムーズにできるよう対応した。

☑ 災害時連絡一覧の更新は防災の日に実施し、防災バックの中身の確認も行ったが、新規利用者の情報を追加することができなかった。

6. 困難ケースの受け入れ

常に地域包括支援センターと連携を図り、困難ケースを積極的に受け入れ、必要時には、包括支援センターが開催する事例検討会等に参加する。

＜評価＞

☑ 包括支援センターからの新たな困難ケースの依頼はなかったが、担当している困難ケースに対して、包括支援センターと連携を取り検討会にも参加できた。

☑ 在宅介護支援センターから依頼のあった中山町内の介護・予防サービス計画の依頼は全て受け入れることができた。

7. 資質向上

利用者に関する情報又はサービス提供に当たっての留意事項に係る伝達等を目的とした居宅会議を週１回実施する

介護支援専門員全員が、具体的な研修目標、内容を個別に作成し、必要な研修には積極的に参加し、適宜評価を行う。

＜評価＞

☑ 週１回の居宅会議を実施し利用者に関する情報共有や困難事例の対応等を話し合った。

☑ 伊予市介護支援専門員連絡会や愛媛県介護支援専門員協会主催のスキルアップ研修への参加の他に、必要な研修会の情報をキャッチし、積極的に参加した。研修参加者は、居宅会議で研修報告を実施し、介護支援専門員全員の知識の向上に繋げた。

☑ 昨年度未実施だった認知症サポーター養成講座を介護支援専門員全員で受けることができた。

1　サービス計画数

（要支援1・要支援2は伊予市包括支援センターからの委託を受けて実施）　　（単位：人）

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	52	58	61	67	66	69	67	64	65	66	63	59	**757**
要介護2	32	28	27	26	26	24	24	26	28	33	33	32	**339**
要介護3	21	24	25	21	24	26	26	25	24	20	23	20	**279**
要介護4	20	20	19	14	13	13	13	12	11	10	11	17	**173**
要介護5	7	7	6	6	7	6	6	6	6	7	6	5	**75**
要介護　計	132	137	138	134	136	138	136	133	134	136	136	133	**1,623**
要支援1・2	31	30	29	31	31	29	33	34	32	31	31	32	**374**
介護+支援の数	163	167	167	165	167	167	169	167	166	167	167	165	**1,997**
介護+支援1/2の数	**148**	**152**	**153**	**150**	**152**	**153**	**153**	**150**	**150**	**152**	**152**	**149**	1,810
事業対象者	**0**	**0**	**2**	**2**	**2**	**3**	**2**	**2**	**2**	**2**	**2**	**2**	**21**

＜サービス計画数　5年間の動き＞　　（要支援は二人で一人として計算・ケアマネ1人35人上限）

（事業対象者は持ち人数へのカウントなし）

	25年	26年	27年	28年	**29年**
計画数	1,636 (1,710)	1,690 (1,738)	1,586 (1,657)	1,817 (2,056)	**1,810** **(1,997)**
要介護数	1,561	1,642	1,515	1,578	**1,623**
要支援数	149	96	142	478	**374**
ケアマネ数	4.1	4.2	4.7	4.8	**5**
1人の持ち人数	33.3 (34.8)	33.5 (34.5)	28.1 (29.3)	31.5 (35.7)	**30.2** **(33.3)**

2　契約開始と契約終了の状況

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護、新規契約		3	6	7	7	4	5	2	4	5	1	4	2	**50**
予防、新規委託		1	1	1	3	1	2	3	0	2	1	0	2	**17**
契約終了	永眠	3	2	3	2	2	1	1	0	1	2	1	2	**20**
	施設入所	0	1	2	1	2	0	4	2	2	2	0	2	**18**
	その他	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	**2**

3　加算対応件数

（単位：人）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防初回加算	2	2	1	3	1	2	3	3	1	0	1	1	**20**
介護初回加算	3	4	3	7	4	8	1	5	7	3	4	2	**51**
入院連携加算	0	1	4	1	0	3	2	2	0	1	4	1	**19**
退院退所加算	1	3	5	0	1	1	0	0	1	0	1	1	**14**
合計	**6**	**10**	**13**	**11**	**6**	**14**	**6**	**10**	**9**	**4**	**10**	**5**	**104**

4　介護保険代行申請数

（単位:人）

種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	0	4	1	0	2	4	2	1	2	1	0	1	**18**
介護保険更新	10	13	6	6	4	12	8	5	12	7	4	5	**92**
介護予防更新	1	3	2	5	1	3	5	1	3	1	2	2	**29**
区分変更	3	2	1	4	5	3	0	1	0	0	2	3	**24**
合計	**14**	**22**	**10**	**15**	**12**	**22**	**15**	**8**	**17**	**9**	**8**	**11**	**163**

5　事業所への提供依頼状況

（単位:人）

サービス種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
訪問介護	55	51	52	55	55	53	54	53	51	47	49	48	**51.9**
訪問看護	22	20	20	19	18	21	21	20	19	19	23	22	**20.3**
通所介護	54	57	56	60	57	62	60	60	56	56	59	61	**58.2**
通所リハビリ	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	**2.5**
小規模通所介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	**0.1**
地域密着通所介護	43	42	47	45	45	45	46	47	51	50	52	55	**47.3**
短期入所生活介護	54	60	61	50	63	55	53	57	51	51	47	56	**54.8**
福祉用具貸与	72	78	78	73	71	72	73	73	71	73	72	72	**73.2**
介護予防訪問介護	13	14	14	13	11	11	12	11	11	12	11	11	**12.0**
介護予防訪問看護	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	**4.5**
介護予防通所介護	20	22	19	18	16	17	19	20	20	17	15	18	**18.4**
介護予防通所リハビリ	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	**1.8**
総合事業がんばる会	0	0	4	5	5	6	6	6	6	5	4	5	**4.3**
予防短期入所生活介護	0	1	1	1	1	2	2	1	1	1	2	2	**1.3**
介護予防福祉用具貸与	7	7	8	8	9	8	8	8	9	10	11	14	**8.9**
合　計	**346**	**361**	**369**	**356**	**360**	**361**	**364**	**365**	**355**	**350**	**354**	**373**	**359.5**

6　サービス担当者会議開催数

（単位:回）

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開催回数	38	39	36	38	34	35	30	28	33	39	30	28	**408**

7　主治医への照会依頼

（医療系サービスや軽度者の福祉用具レンタル利用に関する意見の照会）　（単位:件）

提出月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
提出件数	3	0	1	1	1	2	3	2	1	6	4	4	**28**

８　福祉用具購入費の支給申請

（1年10万円を上限に福祉用具購入費の申請）

No.	申請月	対象者		福祉用具名
1	4	介2	女	ｼｬﾜｰﾁｪｱ・浴槽台
2	4	介2	女	ポータブルトイレ
3	4	介1	女	シャワーチェア
4	5	介1	女	ポータブルトイレ
5	5	介1	女	シャワーチェア
6	7	介1	男	シャワーチェア
7	9	介1	女	浴槽台
8	9	介1	女	浴槽台
9	9	介2	女	ポータブルトイレ
10	12	支1	女	ポータブルトイレ
11	12	介1	女	ポータブルトイレ シャワーチェア
12	12	介1	男	ポータブルトイレ
13	12	介3	男	シャワーチェア
14	3	介4	女	ポータブルトイレ

＜福祉用具購入 5年間の動き＞

年度	25年	26年	27年	28年	29年
件数	27	18	14	6	14

９　住宅改修費の支給申請

（20万円を上限に、住宅改修費の申請）

No.	申請月	対象者		改修内容
1	4	介5	女	手すり付け
2	4	支1	女	手すり付け
3	5	支1	女	手すり付け（トイレ）
4	5	介1	女	手すり付け（トイレ）
5	8	支1	男	手すり付け
6	8	介1	女	手すり付け
7	8	支1	男	手すり付け
8	8	支1	女	手すり付け
9	8	介1	女	手すり付け
10	9	介1	女	手すり付け
11	9	介1	女	手すり付け
12	9	介1	女	手すり付け、段差解消（勝手口）
13	9	介1	男	手すり付け（玄関）
14	9	介1	男	トイレ（和式→洋式）
15	10	介1	女	手すり付け（屋外）
16	10	介1	女	手すり（台所・玄関）
17	12	介1	女	手すり（玄関・居間・浴室）
18	3	支1	女	手すり付け（屋外）
19	3	支1	男	手すり付け（トイレ・入口）

＜住宅改修 5年間の動き＞

年度	25年	26年	27年	28年	29年
件数	29	15	22	12	19

１０　居宅会議開催数

（単位:回）

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開催回数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5	**59**

１１　その他代行申請

社会福祉協議会ｵﾑﾂ申請（寝たきりか重度認知症で尿便意のない人）　⇒　新規申請数　2件

在宅介護支援センター　なかやま幸梅園

【基本方針】

中山町の高齢者やその家族に対し、介護や医療などの相談支援を行い。必要に応じて保健・医療・福祉サービスが円滑に受けられるよう関係機関と連携し、在宅での生活が継続できるよう支援を行う。また、介護予防等の啓発事業など地域貢献も行う。

【具体的取り組み】

1. 地域ケア会議

保健・医療・福祉・行政関係者が集まり、中山町における要援護者の抱える問題解決に向けた情報交換等を行う場として月に一度開催する。引き続き地域包括ケアシステムの構築に向けて行政・関係機関と連携を取りながら検討する。

＜評価＞

☑ 毎月開催し、各関係機関との情報交換・共有を図ることが出来た。また、必要に応じてサービス等に繋げることができた。

☑ 10 月 1 日より伊予市の公共施設使用料免除基準が見直しされたため、会場を幸梅園に変更し開催している。

2. 介護予防普及啓発事業

介護予防の基本的な知識を普及啓発するため、各種教室や相談などの実施、サロン等の地域における自主的な介護予防活動を支援する。

＜評価＞

☑ サロンに出向き、転倒予防に関する教室や認知症の予防教室を開き、介護予防の普及啓発を行った。

3. 家族介護教室

家族介護者や福祉関係者などへ介護に関する知識や技術の習得を目的とした勉強会を開催する。また介護者の気分転換や親睦、職員との情報交換の場として、研修旅行などを行う。

＜評価＞

☑ 家族や福祉関係者を対象に、介護方法や福祉用具の紹介、介護者のストレス軽減を目的にした研修旅行、認知症サポーターの養成講座など、年 12 回実施した。

4. 認知症相談

中山町の住民に対して、愛媛大学医学部付属病院の専門医が認知症に関する相談、診察などを行い早期発見・治療に繋げる。また、地域住民や福祉関係者を対象に認知症への理解に向けた啓発活動を行う。

中山町健康調査については、昨年度から行われている第５回調査が円滑に進むよう地域住民や関係機関と連携を図ると共に、対象者のフォローアップを行っていく。

＜評価＞

☑ 毎月 2 回、認知症専門医による診察・相談を行い、認知症の早期発見や治療、必要に応じてサービス利用の助言など、認知症になっても在宅生活が続けられるよう支援を行った。

☑ 第 5 回中山町調査では、調査が円滑に進むよう対象者への連絡や日程調整、送迎などを行った。6 月から 11 月中旬の間は 726 名を対象とした一次調査、11 月下旬から 3 月の間は 447 名を対象とした二次調査を行った。

5. 高齢者配食サービス事業

独居や高齢者夫婦、日中独居状態の高齢者を対象に、安否確認と栄養確保を目的とした配食サービスを実施する。また、訪問時の急変に対しては迅速な対応を行う。

＜評価＞

☑ 中山町の独居や高齢者世帯などを対象に、安否確認と栄養確保を目的に配食を行った。年間延べ 1,178 食、1 日平均 3.2 食であった。

6. 施設の委託管理

（1）伊予市高齢者共同住居

入居者の生活支援と安全の確保に取り組む。

１．昼食作りや建物の清掃、生活相談などの援助を行う。

２．交通の不便さを緩和するための定期バスを週一回運行し、社会生活から孤立しないよう支援する。

３．要介護や支援状態になっても、介護保険サービスを利用しながら、可能な限り共同住居での生活が続けられるように支援する。

（2）中山老人憩いの家

中山地域の高齢者または要援護高齢者の集会や憩いの場として施設を提供し高齢者間の交流を促進する。

＜評価＞

☑ 共同住居において入居者が安心安全に生活できるよう、また社会的に孤立をしないように共同住居担当ヘルパーによるサポートなどを行った。

☑ 憩の家において、自主事業としてがんばる会を週 5 日実施した。また、断酒会に月 2 回、ホールを提供した。

7. 中山老人憩いの家自主事業「がんばる会」

中山老人憩いの家において、高齢者の外出する機会を作り、レクリエーション活動などを通して交流や趣味を見つけ、閉じこもりなど社会的孤立や心身機能低下などの予防・啓発に努める。また、昨年度まで実施した二次予防事業の対象者についてはフォローを続け、今後、介護予防・生活支援サービス事業の基準緩和型とがんばる会の並行実施を模索していく。

＜評価＞

☑ 中山町の高齢者を対象に、閉じこもり予防や趣味作りなどを目的として週 5 回実施。各地域を 7 班に分けて月 3 回程度の頻度で年間延べ 2,235 名が利用した。1 日平均 9.4 名となっている。

☑ 介護予防・生活支援サービス事業の基準緩和型と自主事業のがんばる会との並行実施を模索し、基準緩和型においては年間延べ 196 名が利用した。

8. 地域包括ケア相談窓口設置事業

伊予市地域包括支援センターの窓口機関（ブランチ）設置委託を受け、中山町において支援を必要とする高齢者及び家族などの相談に応じながら、個々または地域の課題発見並びに解決を図る。また、必要に応じて関係機関と連絡調整を行い、適切なサービスに結び付けるなど要支援・要介護状態にならないよう継続的な支援を行う。

＜評価＞

☑ 高齢福祉の拠点として、訪問や電話、集会等を通して、福祉に関する情報を発信し、地域住民に周知した。

☑ 日常生活において、緊急性または継続的な関わりが必要な高齢者に対し実態把握を行い、必要なサービス等の提供に繋げた。

１．地域ケア会議実績

目　的　　保健・医療・福祉・行政関係者が集まり、中山町における要援護者の抱える問題解決に向けた情報交換等を行う場として月に一度開催する。

開催日　　毎月第1木曜日　13時30分から

開催場所　　4月～9月：中山地区公民館　第1会議室　10月～：なかやま幸梅園 会議室等

出席者　　保健・医療・福祉などの現場職員を中心に15名程度

医師・訪問看護師、歯科医師・歯科衛生士、保健センター職員・保健師、社協専門員・居宅介護支援事業所、各居宅サービス事業所、施設相談員、在宅介護支援センター

実施回数　　年間12回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別参加者数	18	13	19	12	11	14	12	14	11	14	13	16	149

２．　介護予防普及啓発事業

目　的　　介護予防の基本的な知識を普及啓発するため、各種教室や相談などの実施、サロン等の地域における自主的な介護予防活動を支援する。

内　容　　転倒骨折予防、認知症予防

対象者：　　65歳以上の高齢者及びその支援のための活動に関わる者

講　師：　　歌体操：田村　妃三子（NPO法人全日本健康音楽研究会　松山支部代表）

カラーセラピー：甲斐　利絵（FLAX認定カラーセラピスト、日本パーソナルカラーアドバイザー）

平成29年度　介護予防

平成29年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数		1		2	1		1	1	1				7
参加人数		21		21	13		15	11	21				102

平成28年度　転倒骨折予防

実施回数	1	1	1	1	2	2	3					1	12
参加人数	22	16	30	12	19	26	56					6	187

平成28年度　認知症予防

実施回数			1	4	2								7
参加人数			10	35	17								62

３．家族介護教室事業実績

目　　的　：　高齢者を介護している家族及びボランティア等に対し、介護方法や介護予防及び介護者の健康作り等についての知識及び技術を習得させるための教室を開催することにより、高齢者を介護している家族等の身体的・精神的負担の軽減を図ると共に在宅福祉の向上及び介護予防に資することを目的とする。

協力機関　：　保健センター・社会福祉協議会　居宅介護支援事業所　介護保険対象事業所

開催場所　：　総合福祉施設なかやま幸梅園等

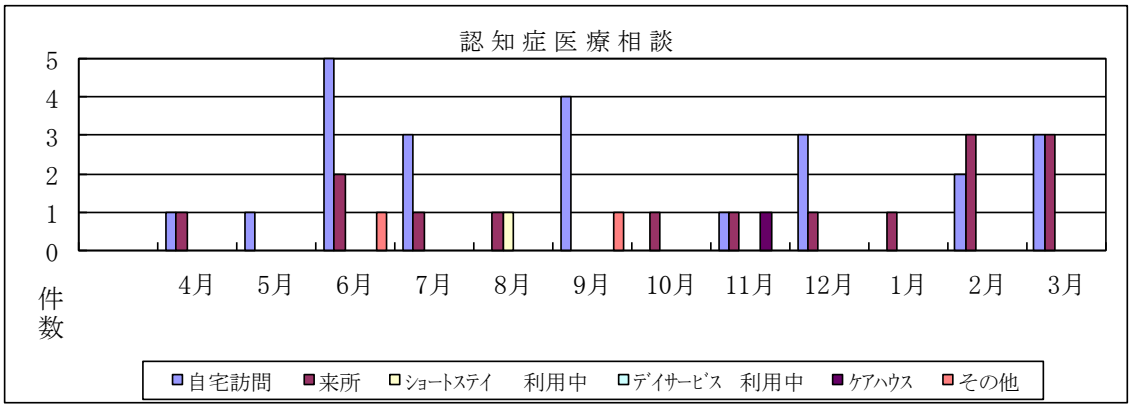
月	日	曜日	時　間	場　所	内　　容	講　師	参加人数
4	20	火	10:00～ 12:00	なかやま幸梅園 会議室	平成29年度　活動計画の検討と福祉の動向について		6
5	10	火	10:00～ 12:00	なかやま幸梅園 会議室	福祉用具について	四国医療 重見和成	7
6	15	水	10:00～ 12:00	なかやま幸梅園 会議室	カラーセラピー	カラーセラピスト 甲斐利絵	14
7	18	月	9:00～ 13:00	伊予市 上野方面	施設見学　あいらんど上野		6
8	29	月	9:30～ 15:30	西条方面	アサヒビール四国工場　車内勉強会「腰痛予防について」		7
9	28	水	10:00～ 12:00	地域事務所 調理実習	高齢者の栄養について	栄養士 米入妙子	9
10	14	金	10:00～ 12:00	地域事務所 第1会議室	災害時における高齢者への生活支援　日本赤十字	指導員 中村トミエ	12
11	17	木	10:00～ 12:00	なかやま幸梅園 会議室	認知症について 愛媛大学医学部付属病院	精神科 吉田 卓Dr	10
12	13	火	10:00～ 12:00	なかやま幸梅園 会議室	排泄用品について	株式会社ILS 担当　松友	12
1	27	金	10:00～ 12:00	なかやま幸梅園 会議室	介護うつ、ストレス対策 愛媛大学医学部付属病院	精神科 越智Dr	9
2	16	木	10:00～ 12:00	地域事務所 第2会議室	健康について	保健センター 小倉 保健師	8
3	16	木	10:00～ 15:00	内子方面	イチゴ狩り　車内勉強会　感染症予防について		10

４．認知症相談

目　的:　　認知症高齢者を抱える家族に対し、愛大精神科専門医による総合相談の実施。

実施日:　　月2回程度

月別 / 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自宅訪問	1	1	5	3		4		1	3		2	3	23
来所	1		2	1	1		1	1	1	1	3	3	15
ショートステイ利用中					1								1
ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ利用中													0
ケアハウス								1					1
その他			1			1							2
合計	2	1	8	4	2	5	1	3	4	1	5	6	42



５．高齢者配食サービス事業

目　的　　訪問による定期的な食事の提供に併せて、高齢者の安否確認を行うことで、当該高齢者等の社会的孤立感を解消し、及び自立支援を図る。

対象者　　①65歳の一人暮らしの者で、身体虚弱等のため、調理し食事することが困難である。
②65歳以上の者のみで構成する世帯の世帯主又は世帯員で、当該世帯主又は世帯員のいずれも身体虚弱等のため、調理し食事することが困難である。
③その他の理由（上記に類する具体的な理由を記入）

・延べ利用数　　96名　　・登録者数（H30.3/31時点）　　29名

・延べ配食数　　1,178食

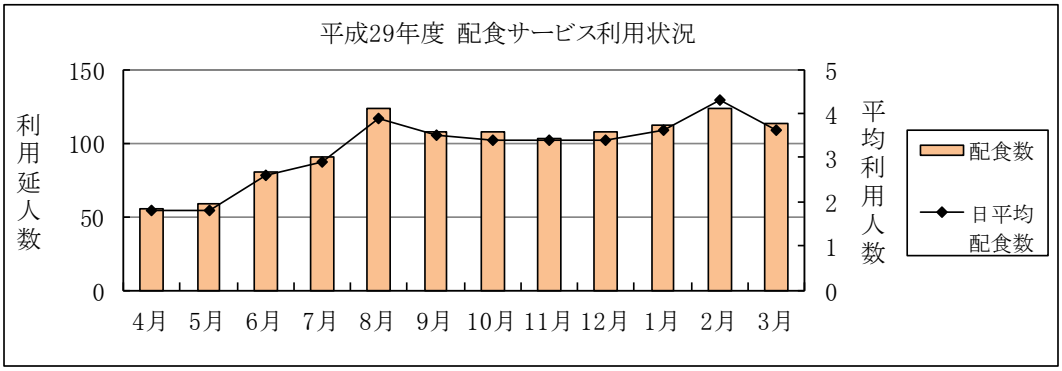
【月別利用人数及び配食数】

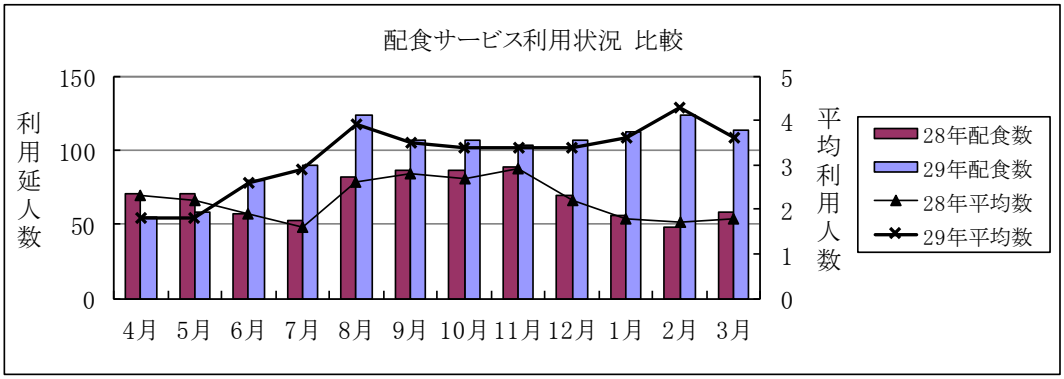
平成29年度

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配食数	55	58	80	90	123	107	107	103	107	112	123	113	1,178
利用人数	5	6	8	9	10	9	7	6	8	8	10	10	96
日平均配食数	1.8	1.8	2.6	2.9	3.9	3.5	3.4	3.4	3.4	3.6	4.3	3.6	3.2

平成28年度

配食数	71	71	57	52	82	86	86	88	69	56	48	58	824
利用人数	6	5	5	4	6	7	8	7	8	5	5	5	71
日平均配食数	2.3	2.2	1.9	1.6	2.6	2.8	2.7	2.9	2.2	1.8	1.7	1.8	2.2





６．施設の委託管理
伊予市高齢者共同住居

目　的　　独り暮らしや、高齢者世帯で買い物や生活に不安を感じている方の生活を共同化することにより、高齢者の生活の質を高め健康増進を図り、介護予防を目的とする。

開設年月日　平成12年2月1日

入居定員　　8名

居　室	性 別	入退居状況	日　付	備 考
ふ　　じ	男　性	退　居	平成29年10月31日	特養へ転居
つ　ば　き				
き　き　ょ　う	女　性	退　居	平成29年9月30日	ケアハウスへ転居
の　ぎ　く	女　性	入　居	平成18年10月23日	
な　の　は　な	男　性	入　居	平成16年10月23日	
り　ん　ど　う	女　性	入　居	平成25年11月15日	
わ　か　た　け				
す　み　れ	女　性	入　居	平成18年3月11日	

行事参加

日　付	行　　事	参加者人数(人)
平成29年12月29日	大掃除	3

・ヘルパー事業
　週5日(月～金)ヘルパーが来て、入居者とともに昼食作りを行う。
・買い物
　交通の不便さを解消するため、毎週金曜日の午前中にバスを運行し、買い物等に利用する。

中山老人憩いの家

７．中山老人憩いの家自主事業「がんばる会」

目　的　家で閉じこもりがちな、概ね60歳以上の高齢者の心身のリフレッシュ、生きがい作り及び自立生活の支援や社会的交流を図ることで、要支援・要介護状態にならないように予防する。

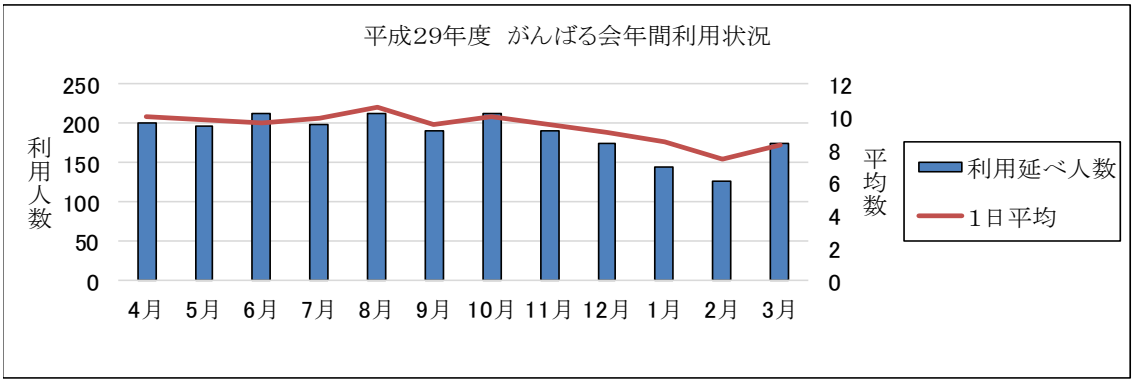
対象者　概ね60歳以上の高齢者

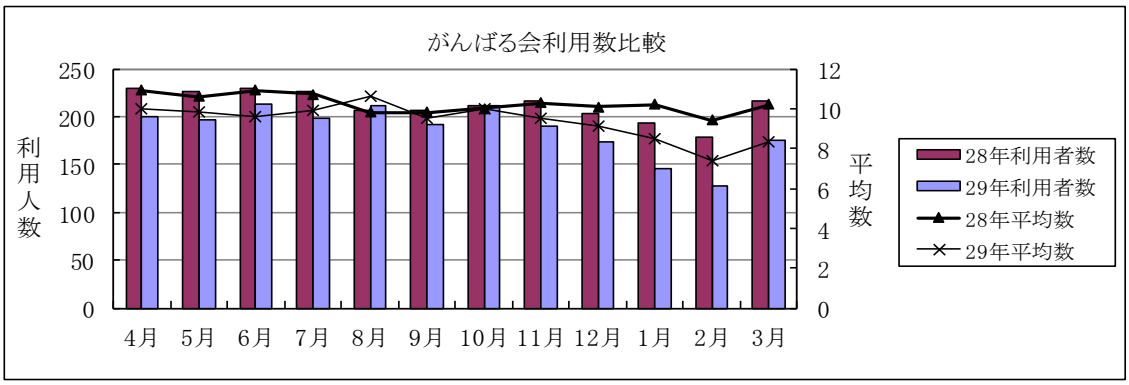
平成29年

月　別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開設日	20	20	22	20	20	20	21	20	19	17	17	21	237
利用延べ人数	200	197	213	199	212	191	212	190	174	145	127	175	2,235
1日平均	10	9.8	9.6	9.9	10.6	9.5	10	9.5	9.1	8.5	7.4	8.3	9.4

平成28年

開設日	21	21	21	21	21	21	21	21	20	19	19	21	247
利用延べ人数	229	226	229	226	207	206	211	217	203	194	179	216	2,543
1日平均	10.9	10.6	10.9	10.7	9.8	9.8	10	10.3	10.1	10.2	9.4	10.2	10.2





8. 地域包括ケア相談窓口設置事業

平成29年度

月別 相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防	10	17	5	34	12	14	9	6	13	16	8	10	154
社会資源 サービス相談	4	7	5	3	6	4	9	4	2	5		3	52
介護保険相談	1	1	7		5	6	5	3	3			2	33
入所相談			3	1							1	1	6
医療相談	2	2	14	5	2	5	1	3	4	1	5	6	50
虐待相談													0
権利擁護相談													0
その他	2	4	10	3	6	2	4	1	1	11		4	48
合計	19	31	44	46	31	31	28	17	23	33	14	26	343

平成28年度

月別 相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防	34	13	35	19	42	28	33	30	19		22	8	283
社会資源 サービス相談	7	6	4	4	6	2	6	3		1		2	41
介護保険相談	5	8	1	4	2	2	2	3				7	34
入所相談	1												1
医療相談	4	8	12	6	4	7	3	4	5	4	7	3	67
虐待相談							5						5
権利擁護相談							1						1
その他	5	5	5	4	1	3		4	7	4	1	2	41
合計	56	40	57	37	55	42	50	44	31	9	30	22	473

高齢者アセスメントシート作成件数

平成29年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	2	1	5	2	1	2	1	3	2	3	1	2	25
継続観察	4	1	3	2	3		3	2	3	1	2	3	27
合計	6	2	8	4	4	2	4	5	5	4	3	5	52

平成28年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	2	2	2	1	1	2				1	1	1	13
継続観察	4	2		4	2	1	3	3	1	1	2	3	26
合計	6	4	2	5	3	3	3	3	1	2	3	4	39

指定通所介護事業所　佐礼谷

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）サービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

＜評価＞

☑ 定期的にサービス担当者会議及び、ケアカンファレンスを実施し、課題分析、プラン立案、実施、評価を行った。本人、家族の希望を聞き、各関係機関と連携を図ることにより、利用者の状態や希望に応じたプランを作成し、同意を得て実施することができた。また、状態の変化に応じて見直しを行い、実施に即したプランに結びつけることができた。

2.　機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（1）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（2）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

＜評価＞

☑ 集団での体操や口腔体操､同時に数種類の運動等を実施することにより機能の維持・向上に努めた。

☑ 季節に応じた創作活動や生活リハビリを行うことにより、活動性の維持・向上に繋がった。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

＜評価＞

☑ 利用日毎に体温、血圧、脈拍の測定及び、観察を行い、健康状態を確認した。体調不良時には、家族に連絡し、主治医の協力により迅速な対応ができた。

☑ 感染症については、手洗い、うがい、消毒等を実施し感染予防に努めた。また、発生時には感染症マニュアルに沿って対策を強化し、蔓延はしなかった。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（1）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（2）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

＜評価＞

☑ 利用者の状態や好みに応じて、集団でのゲームや個別での作品作り等を実施し、意欲的かつ、継続的に取り組むことができた。

☑ 季節毎に行事や外出を実施し、気分転換を図ることができた。地域の年中行事等へも参加し、活動性や社会性の維持・向上に繋がった。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 事業所内の危険個所や車椅子等、介護用品や備品の点検、修理を行った。
☑ 利用者の状態を把握し、家族からも情報を得ることにより、事故防止に努めた。事故発生時には、マニュアルに沿って迅速な対応をすると共に、再発防止を協議した。
☑ ヒヤリハット活動として、記録、検証することにより、事故防止に繋がった。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（1）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。
（2）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。
（3）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。
（4）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 消防署の指導により火災避難訓練を定期的に実施し、防災意識の向上が図れた。また、地震、風水害等災害時の避難方法、留意点等について利用者と共に再確認した。
☑ 施設内の設備については､業者により定期的に点検を行い､不良箇所を整備した。
☑ 地域総合防災訓練への参加はできなかった。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（1）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。
（2）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 研修・勉強会に参加し施設内で伝達研修を行うことにより、知識の習得及び、技術の向上に繋がった。
☑ 言葉遣いやコミュニケーションについて目標を設定し､職員としてふさわしい言

動に努めた。今後も、職員間で注意し合い、利用者の立場に立った処遇に努めたい。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

＜評価＞

☑ 地域で開催される行事等に参加することにより、交流することができた。

☑ 今年も地域ボランティアや団体等により、食器洗い、建物周囲の草引き、草刈り、清掃活動等、多くの協力を得た。

9. 地域貢献

地域の一員である自覚を持ち、理解と信頼が得られるように努めると共に、地域に根ざし開かれた施設を目指す。

（1）地域や学校行事に参加し、交流を図る。

（2）地域住民による施設見学等を実施し、福祉用具の操作、説明等の講習を行う。

（3）各関係機関と連携しながら地域のニーズを把握し、必要時には相談やサービスに繋げる。

＜評価＞

☑ 小学生との交流会や、地域行事への参加により、交流することができた。

☑ 小学生の授業の一環として施設見学を実施し、事業所の説明を行った。

☑ 年2回の運営推進会議を開催したことにより、事業所への理解が深まると共に地域の情報等を得ることができた。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 利用者家族や、地域ボランティア等へのアンケートを実施し、要望や意見を基にレクリエーション、業務等の見直しを行った。また、地域で行われるサロンに出向き、事業所の説明や活動内容の紹介を行い、事業所への理解を深めることができた。一方、法人内、事業所内においても話し合いやアンケートを実施し、業務改善と職員の意識向上を図った。

☑ ケアカンファレンスや申し送り時を利用して、各利用者の状態をできる限り詳細に把握し、医療機関との情報交換を行うことで、重度な状態でも統一したケアを実施することができた。

☑ ケアカンファレンスを利用して、疾病や虐待等についての勉強会を実施したこと

により、新しい知識の習得や再確認ができた。

☑ 業務改善の為、内容や実施時間の見直しを行うことで、効率化が図れた。

☑ 防災については、日頃より、新聞記事等を利用して利用者にも話題を提供し、緊急時における具体的な避難行動等について話し合った。土砂災害が予想される時は、情報収集を行い、サービス提供時間の変更等の対応を行った。

☑ 事業所間の連携不足と、接遇面でのコミニュケーションに関して課題が出現したため、今後はスムーズな連携が図れる対応と接遇のスキルアップの向上に努める。

指定通所介護（介護予防）事業所　佐礼谷

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）サービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

＜評価＞

☑ 定期的にサービス担当者会議及び、ケアカンファレンスを実施し、課題分析、プラン立案、実施、評価を行った。本人、家族の希望を聞き、各関係機関と連携を図ることにより、利用者の状態や希望に応じたプランを作成し、同意を得て実施することができた。また、状態の変化に応じて見直しを行い、実施に即したプランに結びつけることができた。

2.　機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（1）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（2）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

＜評価＞

☑ 集団での体操や口腔体操、同時に数種類の運動等を実施することにより機能の維持・向上に努めた。

☑ 季節に応じた創作活動や生活リハビリを行うことにより、活動性の維持・向上に繋がった。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

＜評価＞

☑ 利用日毎に体温、血圧、脈拍の測定及び、観察を行い、健康状態を確認した。体調不良時には、家族に連絡し、主治医の協力により迅速な対応ができた。

☑ 感染症については、手洗い、うがい、消毒等を実施し感染予防に努めた。また、発生時には感染症マニュアルに沿って対策を強化し、蔓延はしなかった。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（1）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（2）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

＜評価＞

☑ 利用者の状態や好みに応じて、集団でのゲームや個別での作品作り等を実施し、意欲的かつ、継続的に取り組むことができた。

☑ 季節毎に行事や外出を実施し、気分転換を図ることができた。地域の年中行事等へも参加し、活動性や社会性の維持・向上に繋がった。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 事業所内の危険個所や車椅子等、介護用品や備品の点検、修理を行った。
☑ 利用者の状態を把握し、家族からも情報を得ることにより、事故防止に努めた。事故発生時には、マニュアルに沿って迅速な対応をすると共に、再発防止を協議した。
☑ ヒヤリハット活動として、記録、検証することにより、事故防止に繋がった。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（1）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。
（2）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。
（3）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。
（4）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 消防署の指導により火災避難訓練を定期的に実施し、防災意識の向上が図れた。また、地震、風水害等災害時の避難方法、留意点等について利用者と共に再確認した。
☑ 施設内の設備については､業者により定期的に点検を行い､不良箇所を整備した。
☑ 地域総合防災訓練への参加はできなかった。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（1）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。
（2）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 研修・勉強会に参加し施設内で伝達研修を行うことにより、知識の習得及び、技術の向上に繋がった。
☑ 言葉遣いやコミュニケーションについて目標を設定し､職員としてふさわしい言

動に努めた。今後も、職員間で注意し合い、利用者の立場に立った処遇に努めたい。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

＜評価＞

☑ 地域で開催される行事等に参加することにより、交流することができた。

☑ 今年も地域ボランティアや団体等により、食器洗い、建物周囲の草引き、草刈り、清掃活動等、多くの協力を得た。

9. 地域貢献

地域の一員である自覚を持ち、理解と信頼が得られるように努めると共に、地域に根ざし開かれた施設を目指す。

（1）地域や学校行事に参加し、交流を図る。

（2）地域住民による施設見学等を実施し、福祉用具の操作、説明等の講習を行う。

（3）各関係機関と連携しながら地域のニーズを把握し、必要時には相談やサービスに繋げる。

＜評価＞

☑ 小学生との交流会や、地域行事への参加により、交流することができた。

☑ 小学生の授業の一環として施設見学を実施し、事業所の説明を行った。

☑ 年2回の運営推進会議を開催したことにより、事業所への理解が深まると共に地域の情報等を得ることができた。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 利用者家族や、地域ボランティア等へのアンケートを実施し、要望や意見を基にレクリエーション、業務等の見直しを行った。また、地域で行われるサロンに出向き、事業所の説明や活動内容の紹介を行い、事業所への理解を深めることができた。一方、法人内、事業所内においても話し合いやアンケートを実施し、業務改善と職員の意識向上を図った。

☑ ケアカンファレンスや申し送り時を利用して、各利用者の状態をできる限り詳細に把握し、医療機関との情報交換を行うことで、重度な状態でも統一したケアを実施することができた。

☑ ケアカンファレンスを利用して、疾病や虐待等についての勉強会を実施したこと

により、新しい知識の習得や再確認ができた。

☑ 業務改善の為、内容や実施時間の見直しを行うことで、効率化が図れた。

☑ 防災については、日頃より、新聞記事等を利用して利用者にも話題を提供し、緊急時における具体的な避難行動等について話し合った。土砂災害が予想される時は、情報収集を行い、サービス提供時間の変更等の対応を行った。

☑ 事業所間の連携不足と、接遇面でのコミニュケーションに関して課題が出現したため、今後はスムーズな連携が図れる対応と接遇のスキルアップの向上に努める。

平成29年度

指定通所介護事業所 佐 礼 谷 利用実績

１．事業内容　区分: 通所介護〔地域密着型〕利用定員 18名

体制: 入浴介助体制〔あり〕加算

: 送迎体制　〔あり〕

２．開所日数　:　365 日

３．利用実績

（単位:人）

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
登録人数		29	28	29	28	28	30	31	31	29	30	30	31	354
実利用人数		26	24	25	26	26	26	28	28	28	29	28	28	322
介護度別利用者数	要支援1･2	14	8	9	21	19	17	29	25	8	13	12	13	188
	要介護1	56	84	93	92	63	77	102	105	106	100	103	118	1,099
	要介護2	103	94	103	100	83	92	67	75	82	70	58	63	990
	要介護3	37	30	28	27	46	71	76	54	46	42	31	34	522
	要介護4	21	23	18	20	21	22	23	24	20	6	19	21	238
	要介護5	22	22	20	23	25	28	26	24	23	20	21	24	278
	合 計	253	261	271	283	257	307	323	307	285	251	244	273	3,315
１日平均		8.4	8.4	8.8	9.1	8.3	10.2	10.4	10.2	9.2	8.1	8.7	8.8	9.1
月～土曜日平均		9.6	9.8	10.1	11.1	9.2	11.4	12.0	11.5	10.5	9.1	10.0	10.0	10.4
日曜日平均		2.4	1.0	1.5	0.8	1.5	1.5	2.2	1.5	2.0	0.8	0.8	0.8	1.4
延べ入浴者数		169	199	185	194	172	182	181	191	202	180	166	185	2,206
平均入浴者数		5.6	6.4	6.2	6.3	5.5	6.1	5.8	6.4	6.5	5.8	5.9	6.0	6.0

４．要介護度別利用者状況

介護度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要支援	2	1	1	4	3	3	5	4	2	4	3	3	35
要介護1	6	7	7	8	7	7	8	8	9	9	9	9	94
要介護2	10	8	10	7	6	6	5	5	6	8	7	6	84
要介護3	3	3	3	3	5	5	6	7	7	4	4	5	55
要介護4	3	3	2	2	3	3	2	2	2	2	3	3	30
要介護5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合　計	26	24	25	26	26	26	28	28	28	29	28	28	322

５．介護度別利用者年齢構成

平成30年3月31日現在

介護度	要支援		要介護１		要介護２		要介護３		要介護４		要介護５		合計
性別 / 年齢階層	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
65才～69才													
70才～79才				2						1	1		4
80才～89才		2	2	3	1	3		3		2			16
90才～		1	1	1		2		2				1	8
総計	3		9		6		5		3		2		28

６．年間利用状況推移

月 / 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成25年度	263	277	264	274	296	278	262	251	234	210	182	238	3,029
平成26年度	235	291	293	307	261	260	280	254	268	225	214	231	3,119
平成27年度	224	241	246	246	252	248	235	242	241	188	207	217	2,787
平成28年度	245	227	214	213	237	231	235	234	253	253	227	268	2,837
平成29年度	253	261	271	283	257	307	323	307	285	251	244	273	3,315

７．事故発生の状況

No.	月　日	性別	事故内容	発生場所	事故状況	受診	対応・処置内容等
1	7月 20日	女	打撲	送迎車内	送迎車から降りる際、床で打撲	無	内出血と腫れあり。痛みなく様子観察
2	11月 24日	男	転倒	脱衣場	着衣中に椅子に座り損ねる	無	発赤や腫れなく、様子観察
3	1月 5日	女	転倒	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	職員と歩行中、膝折れあり転倒	有	診療所受診、レントゲンにて骨折なし湿布処方あり。 後日、整形受診にて、左橈骨骨折。
4	3月 21日	男	離園	玄関	玄関ドアを自分で開けて外へ出ていた	無	怪我なく様子観察

ヒヤリハット件数　　2件

8.苦情発生の状況

No.	月　日	性別	苦情内容	苦情状況	解決内容等
1	1月 6日	女	事故発生後の対応が不適切	転倒事故により左手首の痛みを訴えて受診した後、立ち上がり、歩行、排泄行為等が困難になっている状態が把握できていたはずだが、利用中に家族にその状態を伝達しなかった。また、長男夫婦は就労のため、不在であることも分かっていたはずだが、家族が帰宅する前に自宅へ送った。そのため、本人は動けず、そのままになっていた。家族はどう対応してよいのか分からない。 翌日、骨折が判明した時も、今までの生活が困難になったが、サービスの提案されることなく、家族はどうすればよいのか分からない。	■事故後状態が変化したことを、利用中に家族に伝達しなかったことと、家族不在の自宅へ送ったために、生活が困難になったことを謝罪 ■事故が起きた場合は、その後の状態を速やかに家族へ連絡し、帰宅等については相談させて頂く。また、生活が継続できるようサービスの提案等、支援する。 ■今回の内容、対策は職員全員に周知し、観察力や介護技術等のケアの質を向上させ、安心してサービスが利用できるよう努める。
2	3月 26日	女	利用についての確認及び連携不足	デイサービス利用日であるのに、通常の時間に迎えが来ず、事業所職員が昼過ぎに利用日であることに気付いてから、迎えに来てサービス利用となったが、どうしてこのようなことになったのか、連携やチェック体制はどのようになっているのか。	■利用日に通常の時刻に迎えに行けなかったことを謝罪 ■サービス担当者会議録に利用再開日、曜日欄を設け、毎回確認する ■担当者会議の情報をできる限り早く共有する ■利用日までにケアマネージャーよりサービス提供票とプランを受け取る ■今回の内容、改善策について職員全員で周知すると共に、情報共有を徹底し、安心してサービスが利用できるように努める

短期入所生活介護事業所　佐礼谷

【基本方針】

利用者及び、その家族のニーズや課題の把握に努め、利用者の有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、サービスを提供する。また、各関連機関との連携を図りながら、利用者の心身機能の維持向上と家族の身体的・精神的負担を軽減することにより、在宅生活が継続できるよう支援する。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）サービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（短期入所生活介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング(評価)を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

＜評価＞

☑ 定期的にサービス担当者会議及び、ケアカンファレンスを実施し、課題分析、プラン立案、実施、評価を行った。本人、家族の希望を聞き、各関係機関と連携を図ることにより、利用者の状態や希望に応じたプランを作成し、同意を得て実施することができた。また、状態の変化に応じて見直しを行い、実施に即したプランに結びつけることができた。

2.　機能訓練

利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。

（1）利用者の心身状況及び生活リズムに応じて、日常生活に必要な機能を維持するためのリハビリを行う。

（2）利用者個々の生活史を考慮したレクリエーション活動を提供すると共に、経過や効果等について検証し、在宅生活や関連事業所でのケアに繋げる。

＜評価＞

☑ 集団での体操や口腔体操､同時に数種類の運動等を実施することにより機能の維持・向上に努めた。

☑ 季節に応じた創作活動や生活リハビリを行うことにより、活動性の維持・向上に繋がった。

3. 健康管理

生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。

（1）サービスの利用毎に、利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康管理を行う。

（2）感染症対策については、感染症マニュアルに沿って適切に対応し、予防に努め、発生時には蔓延、拡大の防止を図る。

＜評価＞

☑ 利用日毎に体温、血圧、脈拍の測定及び、観察を行い、健康状態を確認した。体調不良時には、家族に連絡し、主治医の協力により迅速な対応ができた。

☑ 感染症については、手洗い、うがい、消毒等を実施し感染予防に努めた。また、発生時には感染症マニュアルに沿って対策を強化し、蔓延はしなかった。

4. 環境整備

生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

＜評価＞

☑ 事前に、家族より生活環境についての情報をできる限り収集した。特に居室については、ベッドの配置等できる限り在宅に近い環境を整え、家族の同意を得た。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 事業所内の危険個所や車椅子等、介護用品や備品の点検、修理を行った。
☑ 利用者の状態を把握し、家族からも情報を得ることにより、事故防止に努めた。事故発生時には、マニュアルに沿って迅速な対応をすると共に、再発防止を協議した。
☑ ヒヤリハット活動として、記録、検証することにより、事故防止に繋がった。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織との連携強化を図る。

（1）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。
（2）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。
（3）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。
（4）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 消防署の指導により火災避難訓練を定期的に実施し、防災意識の向上が図れた。また、地震、風水害等災害時の避難方法、留意点等について利用者と共に再確認した。
☑ 施設内の設備については､業者により定期的に点検を行い､不良箇所を整備した。
☑ 地域総合防災訓練への参加はできなかった。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（1）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。
（2）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 研修・勉強会に参加し施設内で伝達研修を行うことにより、知識の習得及び、技術の向上に繋がった。
☑ 言葉遣いやコミュニケーションについて目標を設定し､職員としてふさわしい言

動に努めた。今後も、職員間で注意し合い、利用者の立場に立った処遇に努めたい。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

＜評価＞

☑ 地域で開催される行事等に参加することにより、交流することができた。

☑ 今年も地域ボランティアや団体等により、食器洗い、建物周囲の草引き、草刈り、清掃活動等、多くの協力を得た。

9. 地域貢献

地域の一員である自覚を持ち、理解と信頼が得られるように努めると共に、地域に根ざし開かれた施設を目指す。

（1）地域や学校行事に参加し、交流を図る。

（2）地域住民による施設見学等を実施し、福祉用具の操作、説明等の講習を行う。

（3）各関係機関と連携しながら地域のニーズを把握し、必要時には相談やサービスに繋げる。

＜評価＞

☑ 小学生との交流会や、地域行事への参加により、交流することができた。

☑ 小学生の授業の一環として施設見学を実施し、事業所の説明を行った。

☑ 年2回の運営推進会議を開催したことにより、事業所への理解が深まると共に地域の情報等を得ることができた。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 利用者家族や、地域ボランティア等へのアンケートを実施し、要望や意見を基にレクリエーション、業務等の見直しを行った。また、地域で行われるサロンに出向き、事業所の説明や活動内容の紹介を行い、事業所への理解を深めることができた。一方、法人内、事業所内においても話し合いやアンケートを実施し、業務改善と職員の意識向上を図った。

☑ 各関連機関と連携を図りながら、利用者及び、家族が安心して生活できるように支援した。今年も地域の医療機関の協力を得て、早期受診、迅速な治療が可能となり、利用者及び、家族の安心に繋がった。特に、重度の利用者を受け入れる時には、家族と密に意思疎通を図り、医療機関と連携しながら対応した。

☑ ケアカンファレンスや申し送り時を利用して、各利用者の状態をできる限り詳細に把握し、統一したケアを実施することにより、個別ケアの質の向上を図った。
☑ ケアカンファレンスを利用して、疾病や虐待等についての勉強会を実施したことにより、新しい知識の習得や再確認ができた。
☑ 業務改善の為、内容や実施時間の見直しを行うことで、効率化が図れた。
☑ 防災については、日頃より、新聞記事等を利用して利用者にも話題を提供し、緊急時における具体的な避難行動等について話し合った。土砂災害が予想される時は、情報収集を行い、協力・連携を図りながら幸梅園への避難を行った。

平成29年度

短期入所生活介護事業所 佐 礼 谷 利用実績

１．事業内容　区分: 短期入所生活介護〔単独型〕基準該当
体制: 送迎体制〔あり〕

２．開所日数　：　365日

■ 利用定員　：　5名

■ 稼働率　：　93.21%

■ サービス期間　：　平成29年4月1日～平成30年3月31日

３．利用実績

項目＼月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数			30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用者数			14	15	12	12	16	14	13	13	13	14	13	13	162
介護度別利用状況	要支援	多													
		個													
	要介護1	多	10	10	14	19	14	1						2	70
		個													
	要介護2	多	24	26	40	13	7	7	16	14	14	32	28	21	242
		個			15	16	22	20	13	12	15	10	14	12	149
	要介護3	多	18	41	26	55	66	86	74	77	75	48	48	41	655
		個	40	20	2	3	2	4	1	4	3	4		3	86
	要介護4	多	24	25	11	14	12	7	10	6	10	14	9	35	177
		個					1	2	3				2		8
	要介護5	多	23	24	23	24	24	21	24	23	23	24	22	22	277
		個	6	9	6	6	6	3	14	13	14	9	12	12	110
	合計		145	155	137	150	154	151	155	149	154	141	135	148	1,774
	1日平均		4.8	5.0	4.6	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.7	4.8	4.8
送迎利用実績			58	53	54	71	70	59	60	43	57	55	47	53	680

４．事故発生の状況

No.	月　日	性別	事故内容	発生場所	事故状況	受診	対応・処置内容等
1	10月7日	女	服薬忘れ	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	ゴミ箱の中から、薬が残ったままの袋が出てくる	無	マグミットであり、翌日に排便があったため様子観察
2	10月12日	女	ずり落ち	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	ソファーに座っていた際、動かれてずり落ち	有	後頭部痛みあり、腫れあり。中村脳外受診。
3	1月20日	女	転落	居室	ベッドから車椅子へ移乗しようとして、転落	無	全身観察し痛み、外傷なく様子観察
4	2月4日	女	打撲	トイレ	便座より動いた際、洗面台にて打撲	無	左額に発赤あり、アイシングする。
5	3月11日	女	異食	ﾃﾞｲﾙｰﾑ	臥床時、プラスチック片が口の中から出てくる	無	口腔内の確認し、プラスチック片を取り除く。傷なく、様子観察

ヒヤリハット件数　2件

５．苦情発生の状況

No.	月　日	性別	苦情内容	苦情状況	解決内容等
1	4月 7日	女	ケア内容に関わる事項	トイレの希望をしたが、その時職員が1人であり、2人で介助しないといけないため、職員がそろうまで待たされ、苦痛だった。	■申し出があった排泄のことに関して、謝罪 ■いつでも希望時にトイレ誘導することを約束する ■職員が1人の場合はポータブルトイレを使用し、安全に誘導する。 ■職員全員に周知し、快適に排泄できるよう支援する

指定通所介護事業所　野中

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）サービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

＜評価＞

☑ 担当者会議に参加し、本人及び家族の意見を聞くことで、個人に適したプラン作成に繋がった

☑ 毎月プランの評価をすることで達成状況が随時確認できた。

☑ プラン変更ごとに家族に同意を得ることで、サービス利用に関する連携を図ることができた

2. 機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（1）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（2）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

＜評価＞

☑ 個別のリハビリと集団でのリハビリ体操をバランスよく実施することで、機能の維持・拡大に繋がった。

☑ 退院時のカンファレンスに参加することで、継続性のあるリハビリに繋がった。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

＜評価＞

☑ 利用時には毎回バイタルチェックを行うと共に､看護師により状態を確認することで、各自の健康状態の把握に繋がった。

☑ 病院受診時には医療機関や家族から状態を確認することで､病状に関する情報の共有ができた。

感染症マニュアルに沿って対応することで、感染症の蔓延予防に繋がった。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（1）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（2）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

＜評価＞

☑ 個別でのレクリエーションと集団でのレクリエーションをバランスよく実施することにより、個別のニーズに応じた活動ができた。

☑ 希望の多い外出行事・調理レクを計画的に行うことで意欲の向上に繋がった。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 事故発生時にはマニュアルに沿って対応することで再発防止に繋がった。

☑ 誤薬や内服忘れ等の配薬事故が数件起きてしまった｡今後は服薬管理に関する徹

底が必要である。

☑ 施設内の危険因子を再確認することで、事故防止に繋がった。

☑ ヒヤリハット活動への取り組みにより、個人の危険性を把握することができた。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 年２回の火災避難訓練・年１回の風水害避難訓練を実施することで、防災に関する知識の構築に繋がった。

☑ 地域との防災時の連携については、地区行事等の機会に協力の依頼ができた。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

☑ 言葉遣い等について状況をチェックしながら接遇を良くするよう取り組めたが、部分的に不適切な場面が見られたため、今後も状況に応じた検討が必要である。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

＜評価＞

☑ 老人クラブの総会等に参加し交流を持つことができた。また、老人クラブの集まりがある際には、案内をすることで利用者との交流を持つことができた。

☑ 地域行事に参加することで、地域住民との交流を多く持つことができた。

☑ 地域の代表者・民生委員を対象とした運営推進会議を開催することで、地域との情報交換や交流が図れた。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（1）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（2）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

＜評価＞

☑ 地域行事に参加することで、地域の活動に貢献することができた。

☑ 閉じこもりがちの人に対して、サービス利用の声かけをすることができた。

☑ 利用希望があった際には、居宅介護支援センター等と連携を取り、サービスに繋げることができた。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 利用者ごとにプログラムを立て、計画的・継続的に実施することで、意欲・自発性の向上に繋がった。

☑ 調理レクに関しては、季節に応じた料理を作ることで、季節感を味わえると共に、意欲の向上にも繋がった。

☑ 外出の場所をその都度各利用者に確認することで、希望に沿った外出ができた。

☑ 個別の身体状況を把握し、体操のメニューに取り入れ実施することができた。

☑ 地域の盆踊りや運動会に参加することで地域住民との交流ができた。また老人クラブの総会等に参加し老人クラブとの交流も実施できた。

☑ 老人クラブ会員を対象に勉強会を実施することで、地域福祉の構築に向けた協力ができた。

☑ 医療的処置が必要な利用者でも、医療機関と連携しながら通常通りの受け入れができた。

☑ 言葉遣い等について状況をチェックしながら接遇の改善に取り組んだが、部分的

に不適切な場面が見られたため、今後も状況に応じた検討が必要である。

☑ 外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

☑ 災害時に地域住民や民生委員と情報を共有することで、円滑な避難ができるよう協力体制の構築ができた。

指定通所介護（介護予防）事業所　野中

【基本方針】

利用者が自宅において自立した日常生活を営めるよう、必要な機能訓練を行うことにより、心身、生活機能の維持改善及び向上を目指すと共に、利用者自ら主体的に活動ができるよう計画的かつ、効果的なサービス提供を行う。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）サービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防通所介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング（評価）を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

＜評価＞

☑ 担当者会議に参加し、本人及び家族の意見を聞くことで、個人に適したプラン作成に繋がった

☑ 毎月プランの評価をすることで達成状況が随時確認できた。

☑ プラン変更ごとに家族に同意を得ることで、サービス利用に関する連携を図ることができた。

2.　機能訓練

利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

（1）利用者の希望や、身体状態に適したリハビリメニューを検討し、継続的に実施することにより、身体機能の維持向上を図る。

（2）おやつ作りや洗濯物たたみ等の生活リハビリを利用者の嗜好や状態に合わせて、実践しながらＡＤＬ（日常生活動作）の維持向上に繋げる。

＜評価＞

☑ 個別のリハビリと集団でのリハビリ体操をバランスよく実施することで、機能の維持・拡大に繋がった。

☑ 退院時のカンファレンスに参加することで、継続性のあるリハビリに繋がった。

3. 健康管理

利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。また、感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

＜評価＞

☑ 利用時には毎回バイタルチェックを行うと共に､看護師により状態を確認することで、各自の健康状態の把握に繋がった。

☑ 病院受診時には医療機関や家族から状態を確認することで､病状に関する情報の共有ができた。

感染症マニュアルに沿って対応することで、感染症の蔓延予防に繋がった。

4. レクリエーション

利用者個々の特性に応じたレクリエーションを検討し、計画的に実施する。

（1）利用者のニーズに応じて、意欲的に参加できるレクリエーションメニューの検討及び、実施方法を工夫し、活動の幅を広げる。

（2）季節感を取り入れた年間行事や外出等を実施すると共に、地域行事等へも積極的に参加することで、社会性の維持向上を目指す。

＜評価＞

☑ 個別でのレクリエーションと集団でのレクリエーションをバランスよく実施することにより、個別のニーズに応じた活動ができた。

☑ 希望の多い外出行事・調理レクを計画的に行うことで意欲の向上に繋がった。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるように事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 事故発生時にはマニュアルに沿って対応することで再発防止に繋がった。

☑ 施設内の危険因子を再確認することで、事故防止に繋がった。

☑ ヒヤリハット活動への取り組みにより、個人の危険性を把握することができた。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（1）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（2）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（3）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（4）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 年２回の火災避難訓練・年１回の風水害避難訓練を実施することで、防災に関する知識の構築に繋がった。

☑ 地域との防災時の連携については、地区行事等の機会に協力の依頼ができた。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（1）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（2）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

☑ 言葉遣い等について状況をチェックしながら接遇を良くするよう取り組めたが、部分的に不適切な場面が見られたため、今後も状況に応じた検討が必要である。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通して、地域コミュニティ機能の充実を図る。

＜評価＞

☑ 老人クラブの総会等に参加し交流を持つことができた。また、老人クラブの集まりがある際には、案内することで利用者との交流を持つことができた。

☑ 地域行事に参加することで、地域住民との交流を多く持つことができた。
☑ 地域の代表者・民生委員を対象とした運営推進会議を開催することで、地域との情報交換や交流が図れた。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（1）地域行事に利用者と一緒に参加する。
（2）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

＜評価＞

☑ 地域行事に参加することで、地域の活動に貢献することができた。
☑ 閉じこもりがちの人に対して、サービス利用の声かけをすることができた。
☑ 利用希望があった際には、居宅介護支援センター等と連携を取り、サービスに繋げることができた。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 利用者ごとにプログラムを立て、計画的・継続的に実施することで、意欲・自発性の向上に繋がった。
☑ 調理レクに関しては、季節に応じた料理を作ることで、季節感を味わえると共に、意欲の向上にも繋がった。
☑ 外出の場所をその都度各利用者に確認することで、希望に沿った外出ができた。
☑ 個別の身体状況を把握し、体操のメニューに取り入れ実施することができた。
☑ 地域の盆踊りや運動会に参加することで地域住民との交流ができた。また老人クラブの総会等に参加し老人クラブとの交流も実施できた。
☑ 老人クラブ会員を対象に勉強会を実施することで、地域福祉の構築に向けた協力ができた。
☑ 言葉遣い等について状況をチェックしながら接遇の改善に取り組んだが、部分的に不適切な場面が見られたため、今後も状況に応じた検討が必要である。
☑ 外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。
☑ 災害時に地域住民や民生委員と情報を共有することで、円滑な避難ができるよう協力体制の構築ができた。

平成29年度

指定通所介護事業所 野 中 利用実績

１．事業内容　区分：通所介護〔単独型〕利用定員 16名
体制：入浴介助体制〔あり〕加算
：送迎体制　〔あり〕

２．開所日数　：　365 日

３．利用実績

（単位：人）

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
登録人数		23	23	27	27	28	29	29	29	32	30	32	35	344
実利用人数		22	21	25	26	25	25	26	27	30	28	31	32	318
介護度別利用者数	要支援1･2	25	28	25	16	19	16	19	27	26	19	19	20	259
	要介護1	83	81	124	128	85	91	80	83	91	89	73	97	1,105
	要介護2	59	66	40	57	90	84	86	83	79	84	77	87	892
	要介護3	39	41	44	43	37	37	41	39	31	33	36	46	467
	要介護4												21	21
	要介護5	1	4	5	1					3	1	2	5	22
	合 計	207	220	238	245	231	228	226	232	230	226	207	276	2,766
1日平均		6.9	7.1	7.9	7.9	7.5	7.6	7.3	7.7	7.4	7.3	7.4	8.9	7.6
月～土曜日平均		8.0	8.5	9.2	9.1	8.9	8.8	8.7	8.9	8.5	8.7	8.6	10.2	8.8
日曜日平均		2.0	3.3	3.8	2.6	3.3	2.8	3.2	3.3	3.2	2.8	3.5	3.0	3.0
延べ入浴者数		143	151	172	179	162	165	146	144	164	149	122	218	1,915
平均入浴者数		4.8	4.9	5.7	5.8	5.2	5.5	4.7	4.8	5.3	4.8	4.2	7.0	5.2
野中地区の利用者数		119	124	115	127	127	105	99	100	86	85	74	90	1251
野中地区の利用者割合		57%	56%	48%	52%	55%	46%	44%	43%	37%	38%	36%	33%	45%

４．要介護度別利用者状況

介護度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要支援	5	4	4	3	3	3	3	5	5	3	4	3	45
要介護1	7	7	12	12	10	10	10	9	12	12	12	14	127
要介護2	5	5	4	6	8	7	7	7	7	7	8	7	78
要介護3	4	4	4	4	4	5	6	6	5	5	6	6	59
要介護4												1	1
要介護5	1	1	1	1					1	1	1	1	8
合　計	22	21	25	26	25	25	26	27	30	28	31	32	318

５．介護度別利用者年齢構成

平成30年3月31日現在

介護度	要支援		要介護１		要介護２		要介護３		要介護４		要介護５		合計
性別 / 年齢階層	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
65才～69才						1		1					2
70才～79才				1	1								2
80才～89才		3	2	6		2		2		1			16
90才～		1		5	1	3		4				1	15
総計	4		14		8		7		1		1		35

６．年間利用状況推移

月 / 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成25年度	136	145	137	161	170	138	147	142	129	98	133	158	1,694
平成26年度	172	206	178	220	191	172	181	207	222	218	188	208	2,363
平成27年度	234	257	265	262	236	231	239	219	220	158	211	210	2,742
平成28年度	204	232	211	262	264	243	243	221	213	202	194	211	2,700
平成29年度	207	220	238	245	231	228	226	232	230	226	207	276	2,766

７.事故発生の状況

No.	月　日	性別	事故内容	発生場所	事故状況	受診	対応・処置内容等
1	8月27日	男	車の揺れによる気分不良	車輌	送迎中に段差を通った際に、強く揺れ首周辺に衝撃を受けた	無	体調不良時の頓服を服用し、様子観察をした
2	9月2日	女	誤薬	デイルーム	夕食後の薬を誤って昼食後に服薬してしまった	無	主治医へ報告し、様子観察の指示にて経過観察をした
3	9月9日	女	転倒	トイレ	トイレ内で物音がしたため、確認すると扉付近でしりもちをついていた	無	痛み・外傷ないため、様子観察とした
4	3月16日	女	転倒	玄関	1人で移動中にバランスを崩して転倒した	無	痛み・外傷ないため、様子観察とした
5	3月28日	女	内服忘れ	デイルーム	昼食後の服薬を忘れてしまった	無	主治医へ報告し、様子観察の指示にて経過観察をした

ヒヤリハット　１０件

８.苦情発生の状況

発生なし

短期入所生活介護事業所　野中

【基本方針】

利用者及び、その家族のニーズや課題の把握に努め、利用者の有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、サービスを提供する。また、各関連機関との連携を図りながら、利用者の心身機能の維持向上と家族の身体的・精神的負担を軽減することにより、在宅生活が継続できるよう支援する。

【具体的取り組み】

1.　個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（１）サービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（２）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（短期入所生活介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（３）定期的なモニタリング(評価)を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

＜評価＞

☑ 担当者会議に参加し、本人及び家族の意見を聞くことで、個人に適したプラン作成に繋がった

☑ 毎月プランの評価をすることで達成状況が随時確認できた。

☑ プラン変更ごとに家族に同意を得ることで、サービス利用に関する連携を図ることができた。

2.　機能訓練

利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。

（１）利用者の心身状況及び生活リズムに応じて、日常生活に必要な機能を維持するためのリハビリを行う。

（２）利用者個々の生活史を考慮したレクリエーション活動を提供すると共に、経過や効果等について検証し、在宅生活や関連事業所でのケアに繋げる。

＜評価＞

☑ 個別のリハビリと集団でのリハビリ体操をバランスよく実施することで、機能の維持・拡大に繋がった。

☑ 退院時のカンファレンスに参加することで、継続性のあるリハビリに繋がった。

3. 健康管理

生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。

（1）サービスの利用毎に、利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康管理を行う。

（2）感染症対策については、感染症マニュアルに沿って適切に対応し、予防に努め、発生時には蔓延、拡大の防止を図る。

＜評価＞

☑ 利用時には毎回バイタルチェックを行うと共に､看護師により状態を確認することで、各自の健康状態の把握に繋がった。

☑ 病院受診時には医療機関や家族から状態を確認することで､病状に関する情報の共有ができた。

☑ 感染症マニュアルに沿って対応することで、感染症の蔓延予防に繋がった。

4. 環境整備

生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

＜評価＞

☑ 環境の変化による混乱を防ぐため、自宅での環境や過ごし方を確認し、環境の変化を最小限にするよう考慮することで、混乱を防ぐことができた。

☑ 施設で実施した環境整備を適時報告し､環境の変化に関する状態を共有することで環境面に関する検討が適時できた。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 事故発生時にはマニュアルに沿って対応することで再発防止に繋がった。

☑ 誤薬や内服忘れ等の配薬事故が数件起きてしまった。今後は服薬管理に関する徹底が必要である。

☑ 施設内の危険因子が原因の骨折事故が発生したため、施設環境に関しての検討を行い環境整備に取り組むことで、その後は再発防止に繋がった。

☑ ヒヤリハット活動への取り組みにより、個人の危険性を把握することができた。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織との連携強化を図る。

（1）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（2）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（3）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（4）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 年２回の火災避難訓練・年１回の風水害避難訓練を実施することで、防災に関する知識の構築に繋がった。

☑ 地域との防災時の連携については、地区行事等の機会に協力の依頼ができた。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（1）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（2）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

☑ 言葉遣い等について状況をチェックしながら接遇を良くするよう取り組めたが、部分的に不適切な場面が見られたため、今後も状況に応じた検討が必要である。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

＜評価＞

☑ 老人クラブの総会等に参加し交流を持つことができた。また、老人クラブの集まりがある際には、案内をすることで利用者との交流を持つことができた。

☑ 地域行事に参加することで、地域住民との交流を多く持つことができた。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（1）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（2）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

＜評価＞

☑ 地域行事に参加することで、地域の活動に貢献することができた。

☑ 閉じこもりがちの人に対して、サービス利用の声かけをすることができた。

☑ 利用希望があった際には、居宅介護支援センター等と連携を取り、サービスに繋げることができた。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 利用者の言動を確認し可能な限り意思に沿うことで精神の安定に繋がった。

☑ 生活全般の状態を観察し、生活課題を把握することで、個別の対応に繋がり安楽な生活に繋がった。

☑ 利用者ごとにプログラムを立て、計画的・継続的に実施することで、意欲・自発性の向上に繋がった。

☑ 調理レクに関しては、季節に応じた料理を作ることで、季節感を味わえると共に、意欲の向上にも繋がった。

☑ 外出の場所をその都度各利用者に確認することで、希望に沿った外出ができた。

☑ 個別の身体状況を把握し、体操のメニューに取り入れ実施することができた。

☑ 地域の盆踊りや運動会に参加することで地域住民との交流ができた。また老人クラブの総会等に参加し老人クラブとの交流も実施できた。

☑ 老人クラブ会員を対象に勉強会を実施することで、地域福祉の構築に向けた協力

ができた。

☑ 医療的処置が必要な利用者でも、医療機関と連携しながら通常通りの受け入れができた。

☑ 言葉遣い等について状況をチェックしながら接遇の改善に取り組んだが、部分的に不適切な場面が見られたため、今後も状況に応じた検討が必要である。

☑ 外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

☑ 災害時に地域住民や民生委員と情報を共有することで、円滑な避難ができるよう協力体制の構築ができた。

短期入所生活介護（介護予防）事業所　野中

【基本方針】

利用者の生活課題や家族の抱える様々な問題やニーズを的確に把握すると共に、各関係機関及び、地域との連携を強化して利用者の精神的安定と身体機能の維持向上を目指した介護予防サービスを行う。

【具体的取り組み】

1. 個別援助計画

利用者の心身状況及び、生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び、家族の希望に沿ったサービスを提供する。

（1）サービス担当者会議等にて、利用者及び、家族の希望と、利用者の生活全般についてその状態を十分に把握する。

（2）サービスの提供にあたり、居宅サービス計画に基づいたケアプラン（介護予防短期入所生活介護計画）を立案し、事前に利用者及び、家族に説明し、同意を得る。

（3）定期的なモニタリング(評価)を実施し、より利用者のニーズに沿ったケアプランの実践に努める。

＜評価＞

☑ 担当者会議に参加し、本人及び家族の意見を聞くことで、個人に適したプラン作成に繋がった

☑ 毎月プランの評価をすることで達成状況が随時確認できた。

☑ プラン変更ごとに家族に同意を得ることで、サービス利用に関する連携を図ることができた。

2. 機能訓練

利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。

（1）利用者の心身状況及び生活リズムに応じて、日常生活に必要な機能を維持するためのリハビリを行う。

（2）利用者個々の生活史を考慮したレクリエーション活動を提供すると共に、経過や効果等について検証し、在宅生活や関連事業所でのケアに繋げる。

＜評価＞

☑ 個別のリハビリと集団でのリハビリ体操をバランスよく実施することで、機能の維持・拡大に繋がった。

☑ 退院時のカンファレンスに参加することで、継続性のあるリハビリに繋がった。

3. 健康管理

生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。

（1）サービスの利用毎に、利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康管理を行う。

（2）感染症対策については、感染症マニュアルに沿って適切に対応し、予防に努め、発生時には蔓延、拡大の防止を図る。

＜評価＞

☑ 利用時には毎回バイタルチェックを行うと共に､看護師により状態を確認することで、各自の健康状態の把握に繋がった。

☑ 病院受診時には医療機関や家族から状態を確認することで､病状に関する情報の共有ができた。

☑ 感染症マニュアルに沿って対応することで、感染症の蔓延予防に繋がった。

4. 環境整備

生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

＜評価＞

☑ 環境の変化による混乱を防ぐため、自宅での環境や過ごし方を確認し、環境の変化を最小限にするよう考慮することで、混乱を防ぐことができた。

☑ 施設で実施した環境整備を適時報告し､環境の変化に関する状態を共有することで環境面に関する検討が適時できた。

5. リスク管理

利用者が安全に過ごせるよう、事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

（1）介護用品や備品、危険箇所の点検を定期的に行い、安全かつ快適に過ごすための介護機器の検討と環境整備を行う。

（2）利用者の情報収集を十分に行い、予測できる事故について家族と共に理解し未然に防ぐ工夫をする。

（3）ヒヤリハット活動を充実させることにより事故予防に繋げる。

（4）事故発生時は、マニュアルに沿った迅速かつ適切な対応を行い、原因を多面的に検証し、再発防止に努める。

＜評価＞

☑ 事故発生時にはマニュアルに沿って対応することで再発防止に繋がった。

☑ ヒヤリハット活動への取り組みにより、個人の危険性を把握することができた。

6. 防災対策

火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織等との連携強化を図る。

（１）火災害等の発生に備えて、状況に応じて迅速かつ、適切な避難誘導が行えるよう、定期的に避難訓練等を実施する。

（２）防災設備については、緊急時に十分機能するよう、日頃から定期的に点検整備を実施する。

（３）地震及び、風水害等発生時対応マニュアルに沿って、自然災害発生時における避難、救護体制の構築を図る。

（４）地域総合防災訓練への参加及び、消防機関、地域防災組織等との連携により地域ぐるみで自主防災機能の強化を図る。

＜評価＞

☑ 年２回の火災避難訓練・年１回の風水害避難訓練を実施することで、防災に関する知識の構築に繋がった。

☑ 地域との防災時の連携については、地区行事等の機会に協力の依頼ができた。

7. 職員教育

質の高いサービスを提供するために、自己研鑽に努め、資質の向上を図る。

（１）園内外で開催される各種研修・勉強会等に参加し、専門的な知識、技術を修得し、業務の適正化及び、効率化に努める。

（２）挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、職員としての基本的なマナーを身につけると共に、職員個々のコミュニケーション能力を高め、サービスの質の向上を目指す。

＜評価＞

☑ 外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。

☑ 言葉遣い等について状況をチェックしながら接遇を良くするよう取り組めたが、部分的に不適切な場面が見られたため、今後も状況に応じた検討が必要である。

8. 地域交流

地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

＜評価＞

☑ 老人クラブの総会等に参加し交流を持つことができた。また、老人クラブの集まりがある際には、案内をすることで利用者との交流を持つことができた。

☑ 地域行事に参加することで、地域住民との交流を多く持つことができた。

9. 地域貢献

関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。

（１）地域行事に利用者と一緒に参加する。

（２）各関係機関、居宅介護支援センター、在宅支援センターと連携を図り、在宅生活を継続していく上で、サービスを必要としている人に対し早期に対応する。また、個々のニーズに対し、柔軟に対応する。

＜評価＞

☑ 地域行事に参加することで、地域の活動に貢献することができた。

☑ 閉じこもりがちの人に対して、サービス利用の声かけをすることができた。

☑ 利用希望があった際には、居宅介護支援センター等と連携を取り、サービスに繋げることができた。

【総合評価】

＜評価＞

☑ 利用者の言動を確認し可能な限り意思に沿うことで精神の安定に繋がった。

☑ 生活全般の状態を観察し、生活課題を把握することで、個別の対応に繋がり安楽な生活に繋がった。

☑ 利用者ごとにプログラムを立て、計画的・継続的に実施することで、意欲・自発性の向上に繋がった。

☑ 調理レクに関しては、季節に応じた料理を作ることで、季節感を味わえると共に、意欲の向上にも繋がった。

☑ 外出の場所をその都度各利用者に確認することで、希望に沿った外出ができた。

☑ 個別の身体状況を把握し、体操のメニューに取り入れ実施することができた。

☑ 地域の盆踊りや運動会に参加することで地域住民との交流ができた。また老人クラブの総会等に参加し老人クラブとの交流も実施できた。

☑ 老人クラブ会員を対象に勉強会を実施することで、地域福祉の構築に向けた協力ができた。

☑ 言葉遣い等について状況をチェックしながら接遇の改善に取り組んだが、部分的に不適切な場面が見られたため、今後も状況に応じた検討が必要である。

☑ 外部研修や園内の勉強会に参加することで、知識・技術の向上に繋がった。
☑ 災害時に地域住民や民生委員と情報を共有することで、円滑な避難ができるよう協力体制の構築ができた。

平成29年度

短期入所生活介護事業所 野 中 利用実績

１．事業内容　区分: 短期入所生活介護〔単独型〕基準該当
体制: 送迎体制〔あり〕

２．開所日数　:　365 日

■ 利用定員　:　6名

■ 稼働率　:　96.30%

■ サービス期間　:　平成29年4月1日～平成30年3月31日

３．利用実績

項目＼月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用者数		11	13	15	14	15	15	15	17	16	15	14	17	177
介護度別利用状況	要支援						2							2
	要介護1	12	26	34	22	33	14	25	23	23	24	25	41	302
	要介護2	65	59	64	60	44	65	63	52	63	62	43	47	687
	要介護3	37	70	66	86	106	96	98	101	92	87	95	61	995
	要介護4	57	18										28	103
	要介護5	7	7	6										20
	合 計	178	180	170	168	183	177	186	176	178	173	163	177	2,109
	1日平均	5.9	5.8	5.7	5.4	5.9	5.9	6.0	5.9	5.7	5.6	5.6	5.7	5.8
送迎利用実績		39	46	45	32	39	42	46	29	30	36	30	33	447
野中地区の利用者数		60	48	54	57	63	56	66	55	67	60	58	80	724
野中地区の利用者割合		34%	27%	32%	34%	34%	32%	35%	31%	38%	35%	36%	45%	34%

４．年間利用状況推移

年度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成25年度	180	183	180	184	186	176	177	176	176	184	168	180	2,150
平成26年度	178	186	180	185	186	179	186	180	182	176	166	175	2,159
平成27年度	178	178	174	179	178	173	170	162	175	168	172	156	2,063
平成28年度	164	175	178	170	178	172	168	160	164	172	160	185	2,046
平成29年度	178	180	170	168	183	177	186	176	178	173	163	177	2,109

５.事故発生の状況

No.	月　日	性別	事故内容	発生場所	事故状況	受診	対応・処置内容等
1	7月12日	女	衝突	居室	移動中にフラツキ柱に左肩から上肢をぶつける	無	皮内出血あるも痛みはなかったため、湿布を貼用して様子観察とした
2	10月26日	女	ずり落ち	デイルーム	移乗中に座りが浅く、ベッドよりずり落ちた	無	痛み・外傷ないため、様子観察とした
3	10月29日	女	内服忘れ	デイルーム	昼食後の服薬を忘れてしまった	無	主治医へ報告し、様子観察の指示にて経過観察をした
4	12月5日	女	誤薬	デイルーム	他者の薬を服用してしまった	無	主治医へ報告し、様子観察の指示にて経過観察をした
5	12月6日	女	転倒	居室	自力でポータブルトイレを使用中に転倒する	有	病院受診をし、恥骨骨折にて治療となる
6	3月3日	女	ずり落ち	居室	ベッドに座ったままペーパーを取ろうとしてバランスを崩してずり落ちる	無	痛み・外傷ないため、様子観察とした
7	3月15日	女	転倒	居室	自力でポータブルトイレを使用中に転倒する	無	痛み・外傷ないため、様子観察とした
8	3月27日	女	転倒	居室	自力でポータブルトイレを使用中に転倒する	無	痛み・外傷ないため、様子観察とした

ヒヤリハット　１０件

６.苦情発生の状況

苦情発生なし

地域活動支援センター　くりのみ

【基本方針】

なんらかの障がいのある人々が、自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、創作的活動、生産活動の機会の提供及び社会との交流の促進を図ると共に、日常生活に必要な便宜の供与を適切かつ効果的に行う。

【具体的取り組み】

1.　基礎的事業

安定した作業を提供し、働く喜びを実感できるよう支援する。また、個々の個性、可能性に応じた個別の支援をしつつ、利用者間の協調性も養う。

（1）内　　職　100 円ショップのプラスチック製品の組み立てやシール貼り
　　タオル折り、ゴム部品のバリ取り
（2）自主製品　廃油せっけんの製造、販売・メダカの養殖、販売
（3）バザー　　販売品の製造、販売

＜評価＞

☑ 12 月から 3 月にかけて期間限定の内職を受けられるようになり、利用者の収入アップに繋がった。

☑ バザー販売では、売れ行きが落ちている商品があるため今後どう対応するか、利用者の意見も踏まえて検討が必要となる。

☑ 内職によっては、受け取ることができる内職量が激減することがあったが、活動を提供することができた。

2.　機能強化事業

レクリエーションや季節の行事を体験したり、社会参加を積極的に行うことで、日常生活の維持向上を図る。

（1）自主活動　　お花見、新年会、クリスマス会、忘年会
　　調理実習、学習会
　　映画、交流会、遠足
　　くりのみフレンドリー祭り
（2）参加型活動　町内福祉施設周辺の草引き、清掃
　　町内福祉施設での行事への参加
　　市、他施設、病院等の行事へのバザー参加

＜評価＞

☑ 雨で外出先を変更することがあったが、雨天時の内容を事前に用意し対応した。

また月曜日の利用者が一番多いが、外出先の希望を取る際、月曜日が休館日であることもあったため外出する曜日の調整が必要。

☑ イルミネーションや祭りへの参加等、夜間の外出行事の希望がでている。今後検討する。

☑ 外出先を希望する利用者が偏っているため、事前に情報を印刷し、選んでもらう方法をとり対応した。

3. 職員教育

三障がい対応の体制であるため、それぞれの障がい特性についての知識を習得し、個別に柔軟で細かなサービスを提供する。

（1）各種研修会に参加し、専門的な知識、技術の習得に努め、利用者一人ひとりに合った支援を心掛ける。

（2）職員間で研修事項を共有し、統一した支援の提供に努める。

（3）定期的に事業所内勉強会を開催する。

＜評価＞

☑ 月１回のくりのみ勉強会を通して、障害の理解を深める機会を作った。

☑ 職員間で統一した支援には課題が残り。勉強会に個別支援会議を取り入れ反映させる必要がある。

4. 家族支援

家族にとっても頼りになる施設として、家族と交流を図り、協力し合う。

（1）家族に町内バザーへの参加を呼び掛け、くりのみとの交流を図る。

（2）家族会関係の行事、研修会に参加する。

（3）障がい者関係の法律や障がいの特性、家族としての対応などの情報を提供する。

（4）くりのみや行政への要望を聞き、より良いくりのみの在り方を考える。

＜評価＞

☑ 家族にバザーの案内をしたことで協力を得ることができた。今後も引き続きバザーの案内をして協力を求めたい。

☑ 保健センターが開催する精神障害者家族懇談会に参加し、家族の想いを聞くようにした。

☑ 伊予市手をつなぐ育成会の勉強会に参加し、事業所での防災への取り組みについて活動報告を行った。

5. 地域貢献

地域住民の福祉力を高めることのできる障がい福祉の拠点として、開かれた施設を目指す。

（1）行政機関、民生委員会、介護サービス機関等の関係機関との連携を深め、地域の中の障がい者やサービスを必要とする人に、くりのみの情報を伝える。

（2）地域事情を考慮した柔軟で幅広い支援を心掛ける。

（3）住民参加型のくりのみフレンドリー祭りを開催する。

（4）くりのみ勉強会の内容に応じて関係機関の参加を呼び掛け、利用者や福祉制度等の理解を深める。

＜評価＞

☑ 相談支援事業所定例会、障害福祉サービス従事者定例会、民生委員会、地域ケア会議等に参加し情報収集や要支援者に関する情報提供を行った。

☑ 3月にくりのみ活動報告会を企画し、家族や関係機関に案内をした。職員と家族1名を含めて勉強会と一年の活動の振り返りを行った。来年度は1月に実施し、家族の意見を事業に反映させることができるように事業計画に取り入れた。

☑ 地域からの困り事についての情報があり当事者や関係機関と面談をした。

（1）年間行事

	行 事 内 容	参加人数	VR	場　所
5月　1日	くりのみ会花見	14		西条
5月　20日	ふたみふれあいBBQ	12		双海潮風ふれあいの館
5月　28日	えひめ国体リハーサルバザー	9		しおさい公園
5月　31日	くりのみ会（草引きボランティア）	10		町内
6月　3日	第29回伊予中山ホタルまつり	10		中山小学校グラウンド
6月　6日	きらら交流会（いちご狩り）	9		双海保健センター
6月　10日	くりのみフレンドリー祭り	12	5	地域活動支援センターくりのみ
6月　26日	くりのみ会（工場見学）	12		東温市（ハタダお菓子館）
7月　22日	なかやま夏祭り	8		中山町内
7月　31日	くりのみ会（ブルーベリー狩り）	11		西予市宇和
8月　6日	なかやま幸梅園盆踊り	8		なかやま幸梅園
8月　14日	くりのみ会（そうめん流し）	13		東温市（上林水の元）
8月　26日	南風会バザー	5		砥部ハートピアみなみ
8月　27日	みんくる夏祭り	10		伊予市児童館
9月　23日	ワークハウス睦美祭り・なかやま栗祭り	11	4	ワークハウス睦美・栗の里公園
9月　25日	くりのみ会（小旅行：呉）	11		大和ミュージアム
10月　7日	くろだふれあい秋祭り	11		くろだ病院
11月　3日	真光園バザー	13	1	真光園
11月　4日	幸梅園文化祭	10		なかやま幸梅園
11月　6日	くりのみ会（プラネタリウム）	13		愛媛県総合科学博物館
11月　19日	あい・愛フェスタバザー	10		伊予市保健センター
11月　25日	朝凪会バザー（買い物）	5		空と大地
11月　27日	くりのみ会（紅葉狩り）	14		愛媛大学
12月　1日	わくわく交流会	10		松前町体育館
12月　9日	お楽しみ会	10		群中地区公民館
12月　10日	精神障がい者地域交流事業	11	1	伊予市保健センター
12月　11日	くりのみ会（忘年会）	14		松山キスケ駅前店
12月　18日	シェイクアウトえひめ	12		地域活動支援センターくりのみ
1月　29日	くりのみ会（調理実習）	12	2	地域活動支援センターくりのみ
1月　30日	障害者差別解消法勉強会	11		松山市民会館
2月　23日	くりのみ会（椿まつり）	10	1	椿神社

（２）利用実績

	（人） 利用実人員	（人） 利用延人員	（日） 開所日数	（人） 1日あたりの平均利用者数	H27	H28
4月	19	244	20	12.2	13.4	**12.3**
5月	18	239	20	12.0	14.1	**12.2**
6月	19	267	22	12.1	14.0	**12.4**
7月	18	253	20	12.7	13.9	**12.3**
8月	20	257	21	12.2	13.2	**11.5**
9月	20	244	20	12.2	13.2	**12.3**
10月	19	249	21	11.9	13.1	**12**
11月	17	242	21	11.5	14.2	**11.8**
12月	19	239	20	12.0	14.0	**12.8**
1月	18	197	19	10.4	12.4	**12.4**
2月	20	218	19	11.5	14.8	**13.2**
3月	18	244	21	11.6	14.0	**12.6**
計	225	2,893	244	11.8	13.7	12.3

（３）個人別利用日数

利用者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
A	17	16	20	20	19	18	19	19	15	17	19	18	217
B	18	17	22	19	19	19	21	17	9	2	2	0	165
C	2	10	5	9	10	6	11	8	11	13	12	15	112
D	9	7	7	7	5	7	1	7	6	3	5	4	68
E	10	17	14	12	15	10	18	14	14	8	10	12	154
F	15	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
G	18	15	21	19	18	19	20	15	17	6	9	20	197
H	15	12	16	15	15	15	15	15	14	12	14	16	174
I	13	16	14	14	14	15	15	16	14	15	10	18	174
J	20	19	21	20	20	20	19	19	18	19	19	21	235
K	9	7	11	12	11	12	10	11	12	0	10	10	115
L	20	19	21	19	20	20	19	16	10	2	3	2	171
M	20	20	22	20	20	20	21	21	16	19	19	21	239
N	17	18	19	17	17	18	19	18	16	14	17	19	209
O	4	4	5	4	9	4	3	5	10	6	6	4	64
P	12	10	9	9	7	3	2	1	2	3	6	7	71
Q	0	0	2	0	1	2	1	0	0	0	0	0	6
R	4	7	8	6	9	7	0	0	7	9	9	6	72
S	20	18	22	20	20	20	21	21	20	19	19	19	239
T	1	0	0	1	1	0	3	0	17	18	18	20	79
U	0	0	8	10	0	0	0	0	0	0	0	0	18
V	0	0	0	0	7	5	0	0	0	0	0	0	12
W	0	0	0	0	0	4	11	19	11	12	11	12	80
計	244	239	267	253	257	244	249	242	239	197	218	244	2,893
H27	282	281	294	290	281	264	289	269	279	235	296	308	3,368
H28	246	239	273	245	253	246	251	235	243	235	263	277	3,006

指定相談支援事業所　　くりのみ

【基本方針】

障がい者の福祉に関する各般の問題につき、障がい者や家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言、その他の障がい福祉サービスの利用支援等、必要な支援を行う。

また、虐待の防止及びその早期発見のための関係機関との連絡調整その他の障がい者等の権利擁護のために必要な援助を行う。

【具体的取り組み】

1.　一般相談支援事業

利用者の日常生活全般を支援する観点から、障がい福祉サービス事業者や関係機関及び地域等と幅広く連携し、柔軟な支援を提供する。

（１）利用者が気軽に何でも相談できるような雰囲気づくりに努め、利用者の主訴を的確に把握する。

（２）利用者との信頼関係の構築に努め、継続的支援を提供する。

（３）利用者一人ひとりに合った支援を実施するために、関係機関と連携し、地域住民に対し、啓発活動を行う。

（４）過去に訪問相談をしており、サービスに繋がっていない利用者を対象に生活状況の確認を行う。

＜評価＞

☑ 入所する施設が見つかるまで入院中の当事者に対して、毎月通院支援を行った。次の支援に繋げるために検討が必要となる。

☑ 計画相談として支援に入ってもサービスに繋がらない人に対しては､引き続き経過をみている。

☑ 過去に訪問したことがある人の中で､関係機関から情報が入り関わることがあった。サービスに繋がっていない当事者の見直しが必要。

2.　特定相談支援事業

利用者が希望する自立した生活を支えるため、適切な福祉サービスが多様な事業所から、総合的かつ効果的に提供されるよう配慮して計画を立てる。

（１）支給決定前に、利用者の居宅等への訪問面接によるアセスメントを行い、計画案（モニタリング期間の提案を含む）を作成する。

（２）利用者等の同意を得て、計画案を利用者に交付する。

（３）支給決定後、事業者と連絡調整を行うと共に、サービス担当者会議の開催等

により、計画案の内容の説明及び意見を求める。

（４）（３）により意見を求めた計画案について、利用者等に説明し、文書により同意を得て、計画を利用者に交付する。

＜評価＞

☑ 平成 30 年度報酬改定があり、研修会や関係機関の会に参加し情報収集を行った。来年度、対象者へのモニタリング期間の見直しが必要なることが分かった。

☑ サービス終結時は、市と連絡をして日にちを決め請求ミスを減らす。

☑ 介護予防・日常生活支援総合事業の開始により、６５歳以上の対象者は、毎年介護保険と総合支援事業の判定にかけることが必要になった。

3. 地域移行支援・地域定着支援事業

施設・精神科病院から地域に移行するまでの支援や、地域生活を継続していくための支援を行う。

（１）地域移行

① 地域移行支援計画を作成する。なお、作成に当たっては、利用者への面接や障がい者支援施設や精神科病院の担当者を召集した会議を開催し意見を求める。

② 利用者への面接による相談や、施設、病院からの同行による支援を概ね週１回行う。

③ 利用者の状況に応じ、障がい福祉サービス事業の体験利用、１人暮らしに向けた体験宿泊を実施する。

（２）地域定着

① 対象者ごとに、緊急時において必要となる家族、サービス事業者、医療機関等の連絡先等を記載した地域定着支援台帳を作成する。作成に当たっては、利用者に面接によるアセスメントを実施する。

② 利用者との常時の連絡体制を確保すると共に、居宅への訪問等を行い、利用者の状況を把握する。

③ 緊急時には、速やかに居宅への訪問を行い、状況を把握すると共に利用者の家族、関係機関との連絡調整、緊急一時的な滞在支援を行う。

＜評価＞

☑ 伊予市から依頼が無いため未実施。

4. 職員教育

各種研修会に積極的に参加し、知識・技術を習得することにより、職員の資質の向上に努める。

（1）面接技術の研鑽をすることにより、意思表示の難しい利用者の主訴を把握する力を身に付ける。
（2）障がい特性、制度等の研修に積極的に参加する。
（3）他機関と連携を図るために地域の会合や研修に参加する。

＜評価＞

☑ 意思表示の難しい利用者に対しては、関係機関が集まってモニタリングを実施し、あらゆる視点から情報を取り入れるようにした。
☑ 会員になっている相談支援専門員協会や精神障害者地域生活支援協議会の研修会に参加し、市外で事業をしている事業所からも情報を取り入れた。
☑ 相談支援事業所定例会、障害福祉サービス従事者定例会、民生委員会、地域ケア会議等に参加し情報収集や支援に入っている人の情報提供を行った。

5. 地域貢献

地域住民に相談支援事業を広く周知し、障がいへの理解を深め、誰もが住みやすい町を目指す。

（1）地域住民が障がいについての理解を深めることができるように、啓発活動をすることによって、地域の支援力を強化させる。
（2）個人情報に配慮しつつ、個別支援会議に地域住民の参加を呼びかけ、支援者のネットワークの構築を図る。
（3）地域の実情に合ったサービスの在り方を検討し、使えるサービスを増やす。
（4）地域において必要な社会資源の改善、開発に努める。
（5）支援に協力が必要な場合、当事者の同意を得て民生委員等に担当者会への出席を依頼し、適切な情報を伝えることで地域の支援力を向上させる。

＜評価＞

☑ 当事者の個人情報等に配慮し、支援に近隣住民や民生委員に情報提供をしたが、今後どのように支援に協力してもらうか課題が残った。
☑ 町内の精神障害者家族会の衰退により支援が必要になり、来年度の事業計画に取り入れた。

一般相談

1.相談支援を利用している障害者等の人数　　（人）

		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
H27	障害者	14	1	0	6	7			
	障害児	0							
計	28	14	1	0	6	7	0	0	0
H28	障害者	21	1	0	6	14	0	0	0
	障害児	0							
計	42	21	1	0	6	14	0	0	0
H29	障害者	19	1	0	6	10	1		1
	障害児								
計	38	19	1	0	6	10	1	0	1

2.支援方法

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
H27	28	18	26	69	9	4	202	8	364
H28	27	6	7	43	16	12	182	19	312
H29	28	11	31	52	21	2	188	16	349

3.支援内容

	福祉サービス	障害理解	健康・医療	不安解消	保育・教育	家族関係	家計・経済	生活技術	就労
H27	52	13	41	17		2	154	98	8
H28	76	28	63	57	0	13	51	71	4
H29	28	25	68	10	2	10	38	171	28

	社会参加余暇	権利擁護	その他	計
H27	6	12	14	417
H28	5	8	15	391
H29	4	2	20	406

特定相談

平成27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	4	4	5	2	1	2	1	1	2	1	4	6	33
継続相談	5	6	6	6	10	11	5	7	4	5	8	8	81

平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	7	6	5	2	3	5	6	3	8	2	8	5	60
継続相談	5	6	8	10	9	6	6	8	5	10	6	7	86

平成29年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画相談	6	4	5	4	3	3	6	3	9	3	5	4	55
継続相談	4	10	6	9	13	10	9	5	6	8	8	12	100